

松戸市街路樹の整備・管理に関するガイドライン

～「並木のまち・まつど」を目指して～



令和8年5月

松戸市 街づくり部 みどりと花の課

目 次

1. はじめに	
1-1 ガイドライン策定の背景・目的	1
1-2 街路樹が関係する法令と関係計画	2
1-2-1 関係法令	2
1-2-2 関係計画	3
1-3 街路樹の機能・役割	5
1-3-1 景観機能	5
1-3-2 緑陰機能	6
1-3-3 環境機能	7
1-3-4 防災機能	10
1-3-5 交通安全機能	10
1-4 本市の街路樹の歴史	11
2. 本市の街路樹の現状と課題	
2-1 本市の街路樹の現状	14
2-1-1 街路樹の現状	14
2-1-2 街路樹の維持管理費の推移	16
2-1-3 市民からの評価	17
2-1-4 本市の代表的な街路樹(高木)	18
①ソメイヨシノ	18
②ケヤキ	19
③イチヨウ	20
④アメリカフウ	21
⑤ハナミズキ	22
⑥マテバシイ	23
⑦ユリノキ	25
⑧トチノキ	26
⑨クスノキ	27
⑩トウカエデ	28
⑪サルスベリ	30
⑫ヤマモモ	31
⑬ニセアカシア	32
⑭サクラ‘カンザン’	33
⑮台湾フウ	34
⑯コブシ	35
⑰アンズ	36
⑱カツラ	37
⑲ユーカリ	38
2-1-5 本市の代表的な街路樹(低木)	39
①オオムラサキツツジ	39
②サツキツツジ	39
③ドウダンツツジ	40
④アベリア	40

2-2 松戸市の街路樹の課題 -----	41
2-2-1 老木化、大木化 -----	41
2-2-2 環境に合わない樹種等 -----	42
2-2-3 害虫、キノコ -----	44
3. 街路樹の整備・管理	
3-1 街路樹整備と管理の目指す姿・目標 -----	47
3-1-1 松戸市が目指す街路樹の姿 -----	47
3-1-2 街路樹の整備と管理の目標 -----	47
3-2 街路樹の整備(高木) -----	48
3-2-1 さくら通り -----	48
3-2-2 けやき通り -----	50
3-2-3 生育不良の樹種 -----	51
3-2-4 道路の規格に不適合な樹種 -----	52
3-2-5 品種の変更による諸問題の解決が期待できる樹種 -----	53
3-2-6 街路樹適正に疑問がある樹種 -----	54
3-2-7 その他 -----	54
3-2-8 今後の街路樹整備のまとめ -----	55
① フロー図 -----	55
② フロー結果のイメージ図 -----	56
3-2-9 隣接地に樹林地等がある場合 -----	57
3-2-10 根上り対策 -----	58
3-3 低木の整備について -----	59
3-3-1 ツツジ類の育ちが悪い場合 -----	59
3-3-2 植樹帯の有効幅員が狭い場合 -----	60
3-4 樹種変更に採用する候補樹 -----	61
① ヤマボウシ -----	61
② 常緑ヤマボウシ -----	62
③ サルスベリ(直幹型) -----	62
④ クロガネモチ -----	63
⑤ マグノリア ワダスメモリー -----	63
⑥ その他 -----	63
3-5 整備の実施に向けて -----	64
3-5-1 樹種変更の優先順位 -----	64
3-5-2 樹種変更に伴う合意形成 -----	64

3-6 維持管理の考え方 -----	66
3-6-1 街路樹のせん定について -----	66
3-6-2 樹高低減作業について -----	70
3-6-3 植栽後初期の維持管理について -----	72
3-6-4 猛暑に対応した道路の緑陰づくりの推進 -----	73
3-6-5 安全管理(樹木診断、枯れ枝点検等) -----	74
3-6-6 伐採について -----	74
3-6-7 害虫対策について -----	75
3-6-8 せん定枝、伐採木の活用法 -----	77
3-6-9 落ち葉の活用について -----	77
4. 市民と街路樹	
4-1 高評価と厳しい評価 -----	78
4-2 並木通り名称板等 -----	78
4-3 「前庭プロジェクト」について -----	79
4-4 民間による整備や維持管理へのご協力 -----	79
5. おわりに -----	80

ちょっとブレイク

コラム①100選×百景 -----	13
コラム②「櫻」読めますか？ -----	24
コラム③イチヨウには雄と雌がある -----	24
コラム④どんぐりは食べられる？ -----	24
コラム⑤クスノキと一緒にセミが来た？ -----	29
コラム⑥ユリノキの枝はやわらかい -----	29
コラム⑦トウカエデの枝は硬い -----	29
コラム⑧「アカシアのはちみつ」はニセ物？ -----	32
コラム⑨桜湯が出される理由は？ -----	33
コラム⑩梨は品種によって花が違う -----	36
コラム⑪コアラがあまり動かない理由は？ -----	38
コラム⑫ソメイヨシノはすべてクローン -----	49
コラム⑬栃木県の「県の木」はわかりやすい -----	53
コラム⑭東洋のバラとは？ -----	59
コラム⑮ハナミズキの花は花ではない？ -----	61

■用語集 ----- 81～82

「街路樹の整備・管理に関するガイドライン別冊」に、本市の令和7年12月現在の街路樹マップを掲載します。

1. はじめに

1-1 ガイドライン策定の背景・目的

松戸市には、たくさんの種類の街路樹があります。

常盤平のけやき通りやさくら通りはとても立派ですし、ほかにもお気に入りの街路樹スポットがある方もいるかもしれません。

街路樹は、道路景観の向上や夏季の緑陰提供のみならず、四季の彩を演出し、都市生活におけるやすらぎとうるおいをもたらします。また、火災時の延焼防止や、生物の生息場の提供や環境改善の役割を担う等、身近なみどりとしてなくてはならない存在です。

しかし、現在ある街路樹は植栽されてから何十年と経過したものが多く、大木化したり、樹種によっては弱ってきているものもあります。また、昨今の気候変動により激甚化する集中豪雨や高温化にしなやかに対応できるようにしなければなりません。

今後、高齢化が進むことによる税込減や、あらゆるインフラの老朽化対策費用の増加等、街路樹の維持管理費用の捻出が厳しくなることが想定されるなか、これからの街路樹のあり方を考える時が来ています。そこで、松戸市みどりの基本計画に基づき、持続可能な街路樹の整備・管理に関するガイドラインを策定することとしました。

本ガイドラインにて検討することは主に以下のとおりです。

- ・既存の樹種が現状の植栽環境に合っているか改めて検討する。
- ・既存の樹種が将来も美しく安全に管理し続けられるか再検討する。
- ・樹種・品種の変更について具体的に検討する。
- ・これまでの維持管理方法の継続する部分と見直す部分について検討する。
- ・樹種を変更する場合の地元住民との合意形成について検討する。

「そういえば、わたしの家の近くにある街路樹はどんな木だろう」

「わたしのまちの街路樹はこれからどうなっていくのだろう」

本ガイドラインは、本市の街路樹について関心を持っていただき、少しでも身近に思っただけよう、街路樹に関するコラム等さまざまな情報も盛り込んでみました。

こんにちは！
ぼくは松戸市の街の鳥ツバメです。
ぼくと一緒に松戸市の街路樹について
考えていきましょう！



1-2 街路樹が関係する法令と関係計画

1-2-1 関係法令

道路法では、街路樹は標識や照明灯、防護柵等のような「道路の附属物」の一つとして、道路の構造の保全、安全かつ円滑な道路の交通の確保その他道路の管理上必要な施設（または工作物）であると定義づけられています（道路法第2条2項）。

街路樹のあり方は、道路法に即した政令である道路構造令によって、次の大枠が定められています（正しくは、道路構造令では「街路樹」ではなく「植樹帯」という名称が使われています）。ひとつは、都市や沿道の良好な空間を形成するためにみどりのスペースをなるべくつくる必要があること（第11条の4）。そして、そのみどりは、道路の附属物が車両や歩行者の交通に支障をきたさないように決められた「建築限界」によって、道路からの高さが決められていること（第12条）。

つまり、道路沿いには街路樹があることが望ましい状態であり、車両や人々の安全を確保するために街路樹に対して定期的なせん定を行う等の維持管理を行う必要があるのです。

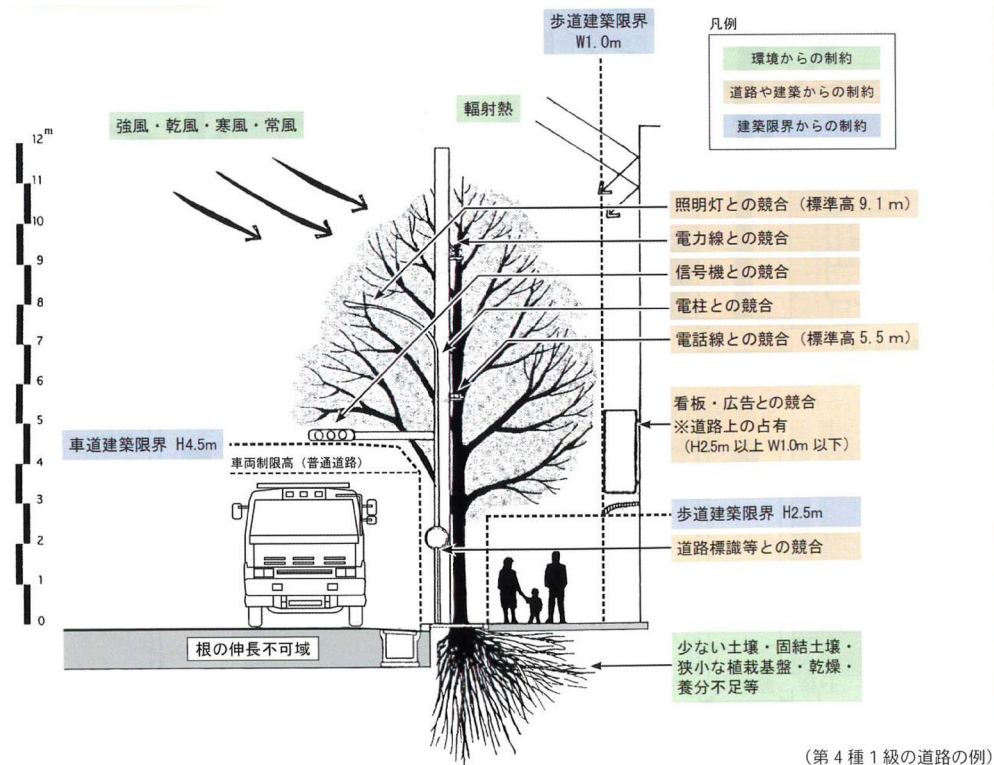


図1-1 街路樹と道路の建築限界

出典:街路樹せん定ハンドブック第5版

道路を構成するもの（例えば車道や分離帯）のなかでも「道路を緑化する」特異な存在である街路樹は、道路構造令に基づく道路緑化技術基準において、設計、施工、管理についての具体的な基準が示されています。

さらに、松戸市では「松戸市街路樹等の保護育成に関する条例」により「街路樹等」を(1)~(3)と定めています。本ガイドラインでの「街路樹」は(1)と(2)を指すこととします。

- (1)国道、県道で市の所有または管理する並木
- (2)市道の並木
- (3)松戸市都市公園条例(昭和34年松戸市条例第20号)で定められていない市の管理に属する公園、遊園地、広場、ならびに堤防上の樹木

1-2-2 関係計画

本ガイドラインの上位計画である「松戸市みどりの基本計画」では、「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」を計画テーマに、4つの基本方針を設定しています。

それぞれの基本方針には具体的な施策が定められており、本ガイドラインの策定は、基本方針①「暮らしを支えるみどりを築く」に基づく施策 1-4「道路・河川のみどりを整備・管理する」の重点施策とされています。

1-4 道路・河川のみどりを整備・管理する

■施策の考え方

本市は街路樹が多いことが特徴となっており、地域の魅力ある街並みを形成し、四季折々の風情を感じることができる身近なみどりとなっています。しかし、都市化による宅地開発が進んだ昭和30年から40年代に植えられた古い街路樹も多いため、適切な維持管理が課題となっています。また、坂川や新坂川、国分川などの市内の河川には、遊歩道が整備されており、多くの人に利用されています。これらの道路や河川のみどりを生かし、うるおいのあるみどりのネットワークの形成を図るための整備と適切な維持管理を進め、緑陰による快適な歩行空間の確保や、季節感の演出、良好なみどりの景観形成などの役割を持つ、歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを進めます。

(1)街路樹の整備・管理（重点施策）

①地域のシンボルとなる桜並木の計画的な整備

- ・日本の道100選にも選定され、松戸市景観計画において景観重要公共施設にも位置づけられている常盤平をはじめ、八柱や六実の桜並木は、さくら祭りの会場として地域活性化の資源としても重要な役割を担っているため、保全と活用に努めます。
- ・老木化が進んでいる街路樹は、このままでは桜の花は徐々に少なくなり、祭りにふさわしい桜並木の景観維持が困難となることから、これまで通りの維持管理にあわせ、桜並木の再生を図るために計画的な整備を進めていきます。

②街路樹の植栽・管理に関するガイドラインの策定

- ・街路樹が持つ景観向上、環境保全、緑陰形成、防災等の多様な機能の発揮と安全性の確保の両立を目指し、将来にわたる維持管理コストの低減化を踏まえた街路樹の整備と管理に関するガイドラインを策定します。
- ・街路樹の植栽・管理に関するガイドライン策定にあたっては、街路樹の周辺の状況や生育状況等に応じた適正な管理ができるように方針を検討します。
- ・街路樹に対する地域の様々な意見を踏まえ、専門家の意見を聴きながら、合意形成のあり方等街路樹についての市民の理解を促進します。
- ・維持管理における近隣住民の参画や合意形成の仕組みを検討します。

③街路樹の適正な維持管理

- ・街路樹、駅前ロータリー、グリーンベルトの適正な維持管理を進めます。
- ・樹木医等の専門家による街路樹診断を実施します。
- ・病害虫の防除、ムクドリ対策等を進めます。
- ・枯損した街路樹について、適宜、補植・植替えを実施します。
- ・維持管理における近隣住民の参画や合意形成の仕組みを検討します。

④街路樹の更新

- ・街路樹の伐採や更新は、地域の意見を聴きながら進める必要があることから、協議の仕組みを検討します。
- ・樹木の健全な生長と、安全な歩行者空間の確保が両立できる植栽基盤の確保に努めます。

(松戸市みどりの基本計画 抜粋)

以上のことから、本ガイドラインの位置付けを次のように示すことができます。

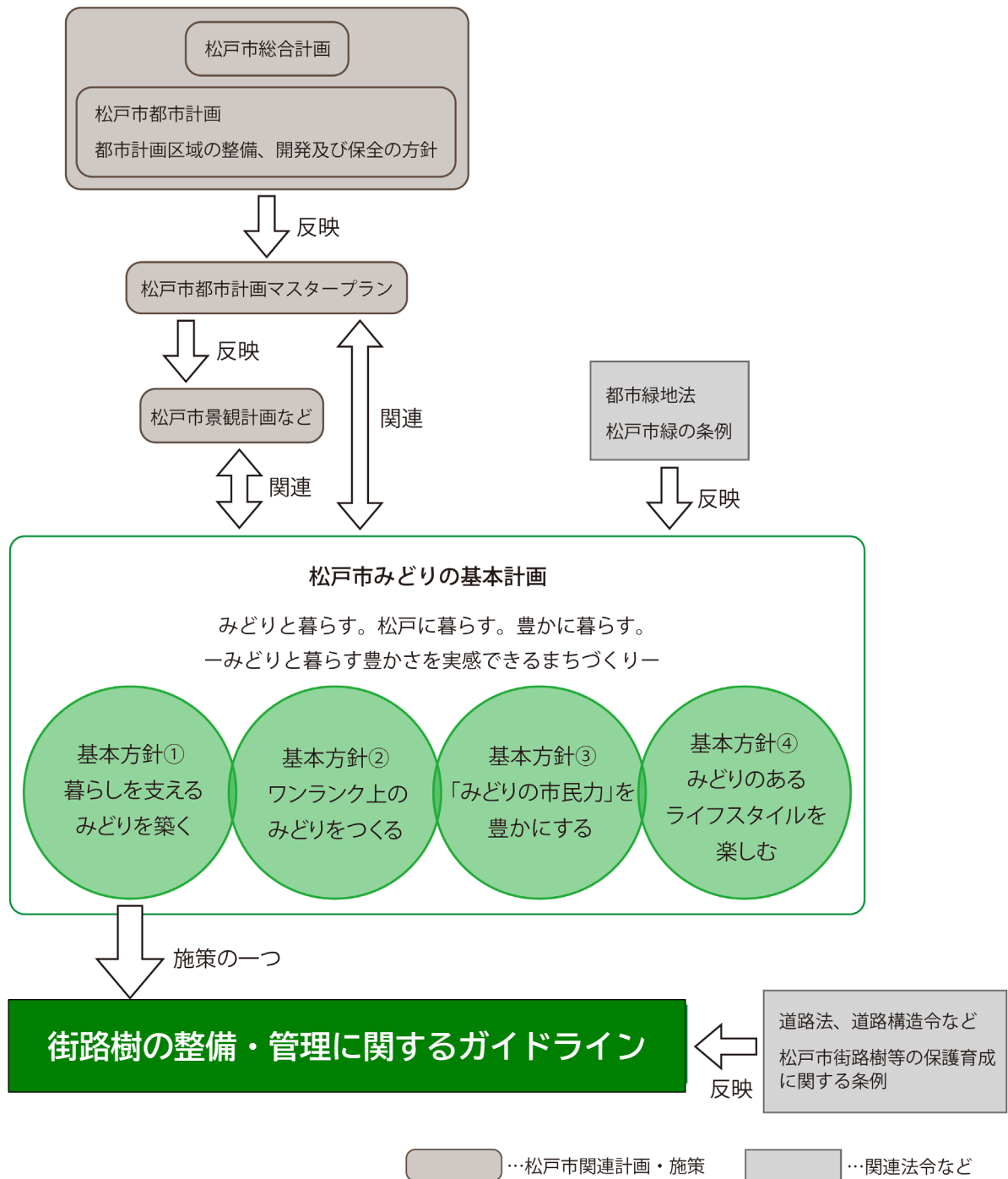


図1-2 本ガイドラインの位置付け

1-3 街路樹の機能・役割

1-3-1 景観機能



ここでは街路樹の5つの機能を確認しよう！

街路樹は、主に都市の景観をつくりあげる重要な役割を果たします。その場に応じた植栽構成や植栽樹種によって生み出された美しい街路樹は、その場所の住環境を向上させるだけでなく、そこを訪れる人にも良い印象を与えます。

街路樹があることにより、季節感、うるおい、やすらぎ、愛着、思い出等、様々なことを感じられる方も多いのではないのでしょうか。

さらに、市街地に点在する公園や緑地を街路樹がつなげることで、途切れることの無い緑のネットワークが形成されます。



常盤平さくら通り



常盤平けやき通り



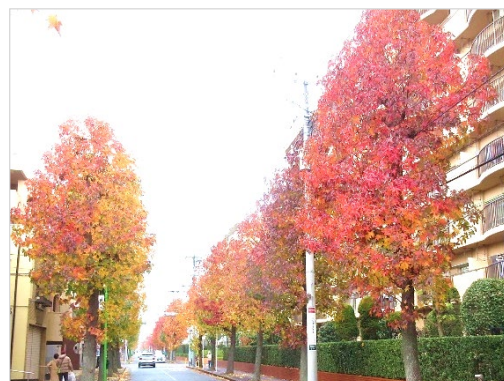
西馬橋いちょう通り



六高台さくら通り



小金原さとざくら通り



新松戸あめりかふう通り

1-3-2 緑陰機能

街路樹の歴史は、奈良時代の五畿七道の駅路の両側に果樹を植えたのが始まりとされ、「木陰を旅人の休憩の場とし、木の実を食料とした」という目的を持っていました。現在でも街路樹の木々が生み出す緑陰は、快適な歩行空間を構成する重要な要素です。

さらに、近年都市のヒートアイランド現象が深刻となるなか、夏の日差しを遮り、心地よい日陰を提供する街路樹は、ウォークラブルなまちなかの創出にはなくてはならない存在といえます。

日本では低木や草地の緑地等も含めた、植物で覆われた面積の割合である緑被率を緑化の指標とすることが一般的ですが、ヒートアイランド対策としては、木陰ができる面積の割合である「樹冠被覆率」を用いることが指標としてより適していると考えられます。近年ニューヨーク市やメルボルン市等の世界の大都市が、この「樹冠被覆率」という指標を使い、都市の木陰を増やすことを目標とし始めています。

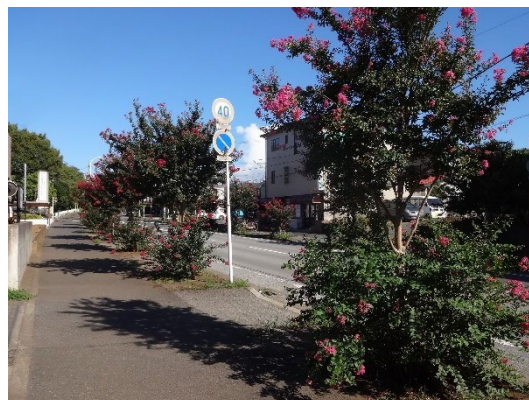
植栽後の樹形の作り方等を工夫することで、街路樹の緑陰を増やすことは都市全体の樹冠被覆率の底上げにつながると考えられます。



ケヤキの影が歩道と車道に落ちている様子



縦長の樹形でも時間帯によっては大きな緑陰ができる



植えて数年経過した街路樹。小さい緑陰でもないと嬉しいもの。

1-3-3 環境機能

街路樹は、樹木の生長によって大気中の二酸化炭素を吸収固定することができるため、地球温暖化防止対策等の観点からも今後一層評価されると考えられます。

樹木と炭素の関係は、次の2つの方法で確認できます。

① 炭素貯蔵量（単位：kg-C またはkg-CO₂）

樹木が今までに蓄えた炭素（CO₂）の総量

② 炭素吸収量（単位：kg-C/年またはkg-CO₂/年）

樹木が1年間で吸収する炭素（CO₂）の総量

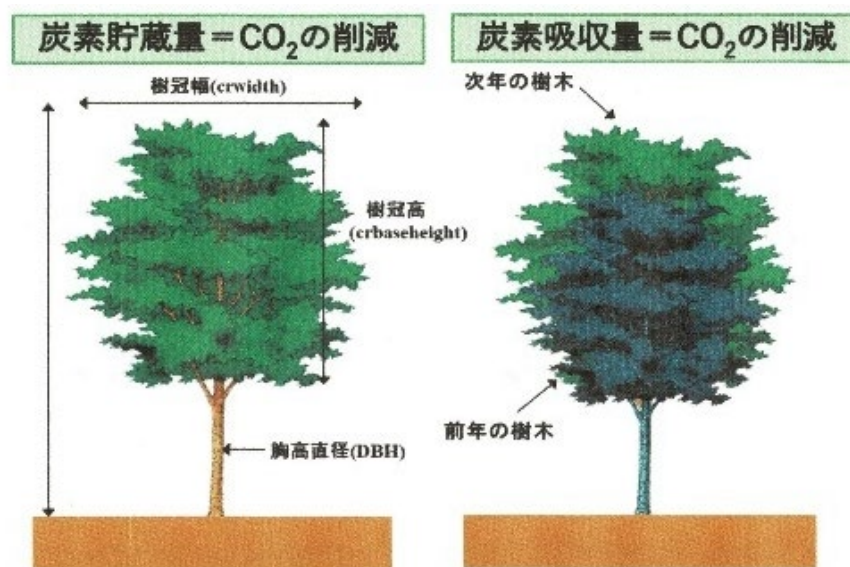


図1-3 緑の価値計算

出典：グリーンインフラ総研資料

① 炭素貯蔵量

特殊な計算式を用いて、本市の代表的な街路樹であるソメイヨシノとケヤキの炭素貯蔵量は以下のようにして求められます。

樹種	樹高	樹冠幅	胸高直径	炭素貯蔵量
ソメイヨシノ	9m	11m	0.66m	2,559 kg-CO ₂
ケヤキ	13m	10m	0.40m	403 kg-CO ₂

※本市における代表的なサイズ

② 炭素吸収量

樹木の大きさによる CO₂ の吸収量の試算をしたものを図1-4に示します。

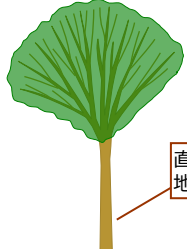
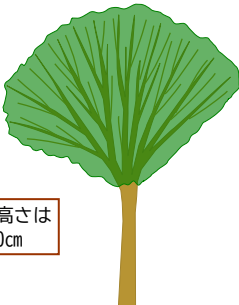
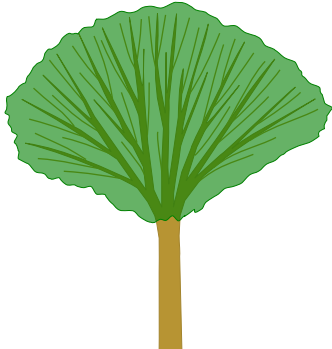
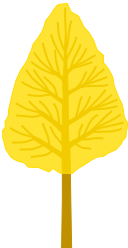
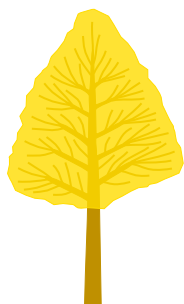
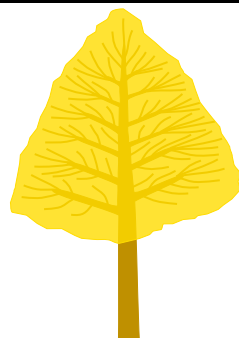
樹種： ケヤキ			
※図の大きさはイメージです	直径を測る高さは地表から120cm		
幹の直径	20 cm	40 cm	59 cm
CO ₂ 吸収量	58.9 kg/年	173.7 kg/年	320.7 kg/年
樹種： イチョウ			
※図の大きさはイメージです			
幹の直径	20 cm	40 cm	59 cm
CO ₂ 吸収量	31.9 kg/年	102.3 kg/年	197.6 kg/年

図1-4 樹木の大きさによるCO₂吸収量の違い

国土技術政策総合研究所ホームページ(<https://www.nilim.go.jp>)内「樹種ごとの年間CO₂固定量を計算してみましょう!」に基づき試算

樹木は光合成によって CO₂ を有機物に変化させて生長します(図1-5参照)。つまり、樹木が大きくなるにつれて、CO₂ の吸収量(固定量)は増大します。環境省の調査によると、全国平均の1世帯あたりの年間 CO₂ 排出量は2.47トン(図1-6参照)なので、直径59cmのケヤキの場合、約8本で1世帯分の年間 CO₂ 排出量を吸収できるという試算となります。大木が連なるような道路では、多くの CO₂ の吸収が期待できると言えます。

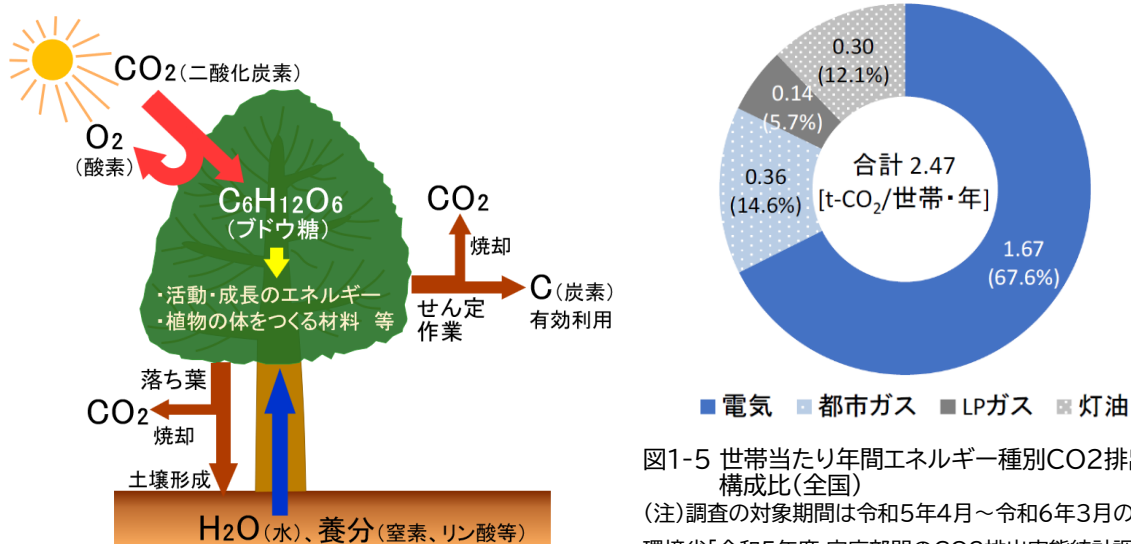


図1-6 緑化樹木のCO₂サイクル(イメージ図)

図1-5 世帯当たり年間エネルギー種別CO₂排出量・構成比(全国)

(注)調査の対象期間は令和5年4月~令和6年3月の1年間。環境省「令和5年度 家庭部門のCO₂排出実態統計調査 結果について(確報値)」より

近年、持続可能な社会に向けた取り組みがさまざまな分野で加速化しています。

持続可能な社会のための対策として、街路樹はどのような役割を担えるでしょうか。持続可能な開発目標（SDGs）を通して見てみましょう。

地球温暖化の進行に伴う気候変動は、災害の激甚化に加え、安定的な水資源の確保、農業生産、生態系に悪影響を与えると懸念されています。

このような地球規模の環境問題が深刻化する中で、国際社会共通の目標として、2015年の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）を中核とする「2030 アジェンダ」が採択されました。SDGs では、17の目標（ゴール）と具体的な169 のターゲットが設定されています。わが国でもSDGsの目標達成に向けた積極的な取り組みが展開されるほか、自治体レベルも、持続可能な社会づくり・都市づくりが重要な課題となっています。

本市では、令和 4 年 3 月策定の「松戸市総合計画」において、「多世代がともにいきいきと思いきいに暮らすことができるまち やさシティ、まつど。～つよくしなやかに みんなで松戸の新たな時代を創ろう～」という将来都市像を描いています。その展望を実現するために設定した基本目標のうちの一つに、「基本目標 6 SDGs（持続可能な開発目標）を推進する社会～人と環境にやさしいまちづくり～」を掲げ、SDGs の取り組みを推進しています。

街路樹の適正な整備や管理は、17の目標（ゴール）のうち、「⑪住み続けられるまちづくりを」、「⑬気候変動に具体的な対策を」、「⑮陸の豊かさを守ろう」の3つの目標に対する機能発揮が期待されます。

■持続可能な開発目標(SDGs)



出典：国際連合広報センター ホームページ

1-3-4 防災機能

街路樹には震災時に倒壊した建物により幹線道路が通行できなくなることを防ぐ効果や延焼防止効果等があり、住民に対して安全・安心を提供します。たとえば、イチヨウは葉に水分が多いため、古くから寺社に植えられる等、防火樹として知られていました。都内には関東大震災後の火災や東京大空襲に耐えたイチヨウが今でも残されています。その他の樹種も葉の水分量に差はありますが、水分があれば着火を遅らせることができるため、延焼防止効果があると考えられます。



阪神淡路大震災で建物倒壊を防ぎ
道路への被害を低減させたイチヨウの街路樹
(出典:街路樹せん定ハンドブック第5版)



震災イチヨウ（東京都千代田区）
※関東大震災後の火災に耐えた

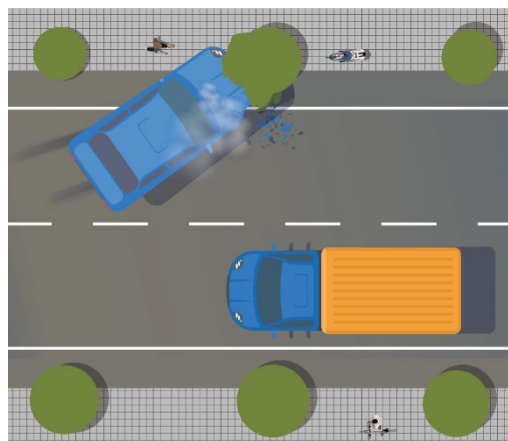
1-3-5 交通安全機能

街路樹のような整然と続いた並木は、交通安全の観点では4つの効果があります。

- ・ 整然と続いた並木は、運転者の視線を誘導する効果があり、安全な走行を支援しています。
- ・ 運転者の注意をそらす道路周辺の対象物を遮蔽する効果があります。
- ・ 日差し等を遮光することで、運転者の疲労を緩和する効果があります。
- ・ 街路樹が盾となり、事故の際等に自動車が歩道に侵入することを防ぐことで、歩行者の生命を守る効果も期待できます。



整然と続くクスノキの街路樹






街路樹が歩行者の安全に寄与(イメージ)

1-4 本市の街路樹の歴史







90年以上の歴史があるんだね！

本市の街路樹は、戦後の高度経済成長期の団地整備と並んで植栽が進められたことを契機に、急激に数を増やしました。ここでは、本市の街路樹の歴史の一部を振り返ります。

年代	本市の街路樹のあゆみ	本市・日本の動き
慶應 3 年 (1867 年)		現在の横浜市で日本初の近代的街路樹が整備される
昭和 9 年頃 (1934 年頃)	本市で最初の街路樹となる八柱霊園前のケヤキ並木が整備される ※当時は八柱村  <small>(出典:公益財団法人東京都公園協会)</small>	
昭和 18 年 (1943 年)		松戸市誕生
昭和 32 年～ (1957 年～)	常盤平団地で街路樹の整備がはじまる 昭和 32 年～常盤平駅側ソメイヨシノ 昭和 35 年～ケヤキ他  常盤平団地中央商店街交差点(1960年頃)	高度経済成長期 (昭和30～40年代)
昭和33年～ (1958年～)	小金土地区画整理で「ハワイ通り」(シュロの木の並木)が整備される。 	

年代	本市の街路樹のあゆみ	本市・日本の動き
昭和 38 年 (1963 年)	松戸市街路樹等の保護育成に関する条例が公布される (翌年施行)	
昭和 41 年～ (1966 年～)	小金原団地で街路樹が整備される ソメイヨシノ、アメリカフウ、イチヨウ等	松戸市の人口が 20万人を超える
昭和 42 年～ (1967 年～)	六実高柳土地区画整理で街路樹が整備される ソメイヨシノ、クスノキ等	
昭和 51 年～ (1976 年～)	新松戸中央土地区画整理で街路樹が整備される ケヤキ、エンジュ、アメリカフウ、トウカエデ、 キョウチクトウ、ユリノキが植栽される	
昭和 57 年～ (1982 年～)	街路樹がある主な通りに名称板の設置をはじめ 	前年に松戸市の 人口が 40 万人 を超える
昭和 62 年 (1987 年)	常盤平さくら通りが「日本の道 100 選」に選ばれる 	バブル景気(昭和 61年～平成3年)
平成 6 年 (1994 年)	常盤平けやき通りが「新・日本街路樹百景」に選ばれる 	

年代	本市の街路樹のあゆみ 市の木は以下の4種類	本市・日本の動き
平成 14 年 (2002 年)	    <p>しい(里の木) ユーカリ(国際交流の木)</p> <p>さくら(街の木) なし(郷土の木)</p>	松戸市の木・花・鳥が制定される
令和 7 年12月 (2025年12月)	毎年常盤平と六高台のさくら通りでさくら祭りが開催されている。 本市の街路樹は約10,300本、総延長約70kmにいたる。	松戸市の人口が50万人を超える

ちょっとブレイク① 100選×百景

日本の道100選の「常盤平さくら通り」と新・日本街路樹百景の「常盤平けやき通り」は、常盤平駅前で交差しています。全国にはこの100選と百景に両方選ばれている通りはありますが、交差しているのは全国でも3箇所のみ（当方調べ）です。すばらしい夜景をよく「100万ドルの夜景」なんて言いますが、ここは100×百だけに「1万円の景観」でいかがでしょうか。ちなみに新1万円札には桜の花が描かれ、肖像画の渋沢栄一誕生の地である埼玉県「県の木」はケヤキなので、1万円とは本当に縁があるかも!?



常盤平駅前の交差点。直進は「けやき通り」、左右に曲がれば「さくら通り」です。



2. 本市の街路樹の現状と課題

2-1 本市の街路樹の現状

2-1-1 街路樹の現状

令和7年12月現在、本市の街路樹は中高木あわせて 29 種類あり、本数は約 10,300 本、総延長は約70kmです。



図 2-1 街路樹現況図 (高木)

ここで、29種類ある本市の樹木の種別本数ランキングを見てみましょう。ソメイヨシノ、ケヤキ、イチョウ、アメリカフウ、ハナミズキの5種類で全体の半分以上を占めています。いずれも春の開花や秋の紅葉等、四季を感じることでできる親しみのある木ばかりです。

昭和期に多くが植えられたケヤキ、ソメイヨシノは樹高が高く、幹が太くなり、大木化してきています。ユリノキ、アメリカフウ、イチョウ、クスノキ等は定期的なせん定によって樹冠はある程度の大きさに維持していますが、幹の太さが200cmを超えるものも出てきました。平成以降に植えられた木では、ハナミズキが圧倒的に多い状況です。

参考として、全国の街路樹ランキングを確認しましょう。全国には670万本もの街路樹が植えられており、最も多く植えられているのはイチョウですが、長らく2位だったサクラ類がほぼ同じ数まで増えています（令和4年3月31日現在）。

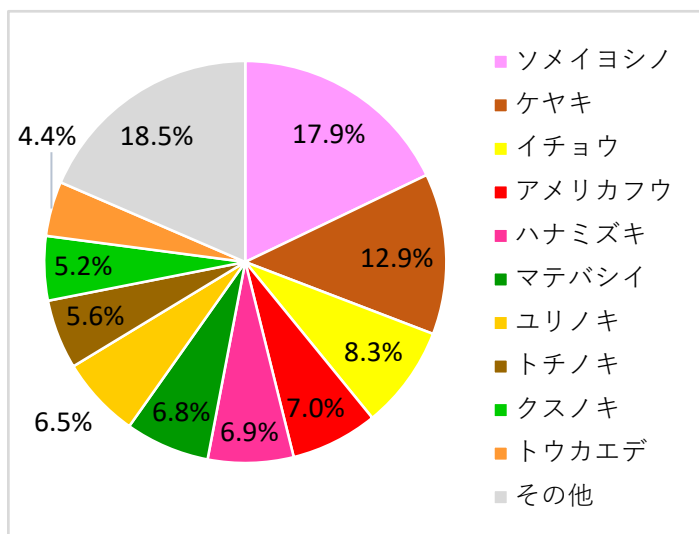


図2-2 本市の街路樹種別ランキング



紙敷さくら通り



常盤平けやき通り

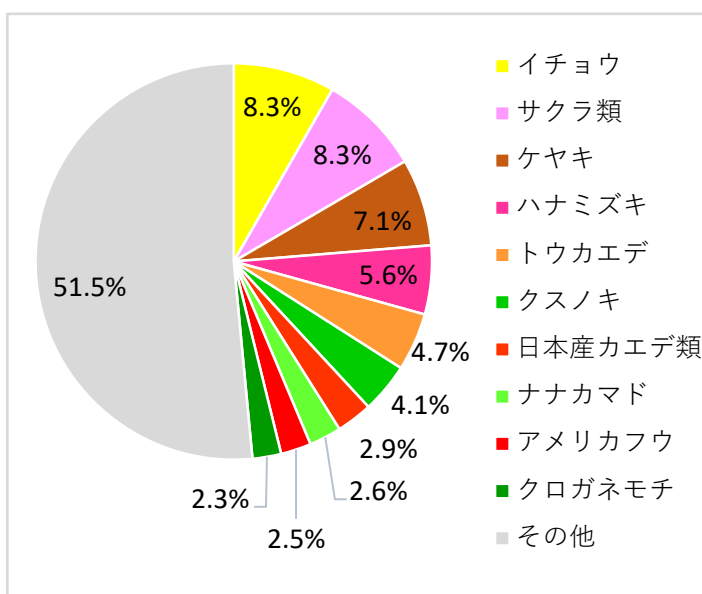
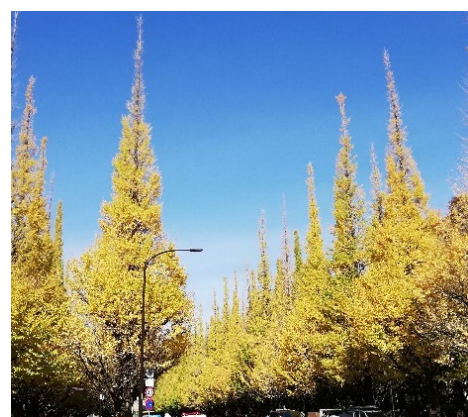


図2-3 全国の街路樹種別ランキング上位10位
国土技術政策総合研究所「わが国の街路樹IX」より



絵画館前いちょう並木（東京都港区）



定禅寺通りのケヤキ（仙台市）

つぎに樹木を性質別に見てみましょう。

秋から冬にかけて葉を落とす落葉樹が圧倒的に多く、本市の街路樹の約80%を占めます。落葉樹は日差しの強い夏は涼やかな木陰を提供します。一方、冬は葉を落とした枝の間から日の光をたっぷりと浴びることができます。

一年中みどりを絶やさない常緑樹にはクスノキ、マテバシイ等があり、全体の約20%を占めます。

中木は高木よりも小ぶりの木で、キンモクセイやキョウチクトウがそれにあたります。

街路樹を構成する木には、植樹帯等に植えられたツツジ等の低木もあります。本市の街路樹を構成する低木は 18 種類、合計約 28,000 ㎡あります（低木は高木のように「本数」ではなく、面積でカウントする場合があります）。種別では、オオムラサキツツジが圧倒的に多く、サツキ、アベリア、ドウダンツツジと続きます。

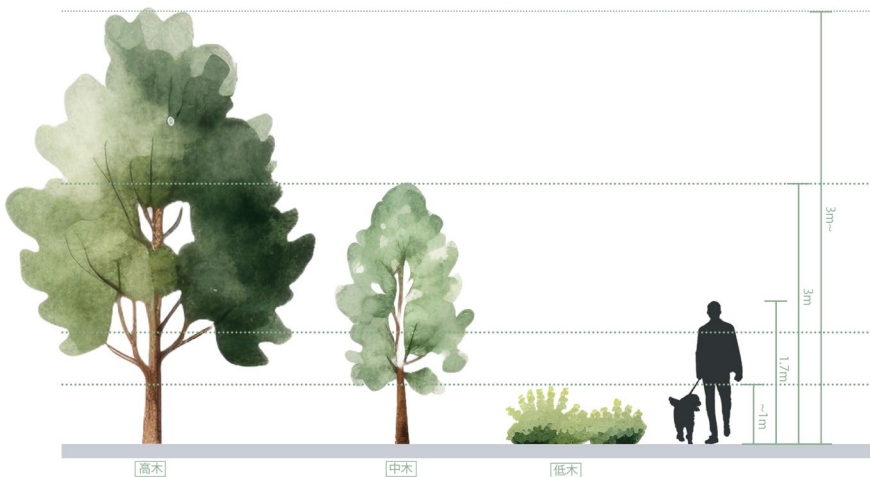


図2-4 樹木の高さイメージ



低木の一例
上 オオムラサキツツジ
下 ドウダンツツジ

2-1-2 街路樹の維持管理費の推移

本市の街路樹の平成21年度から令和6年度にかけての維持管理費用の推移は、以下のグラフのとおりです。街路樹の本数はほとんど変わっていませんが、維持管理費用は、物価上昇の影響分以上に増加していることがわかります。

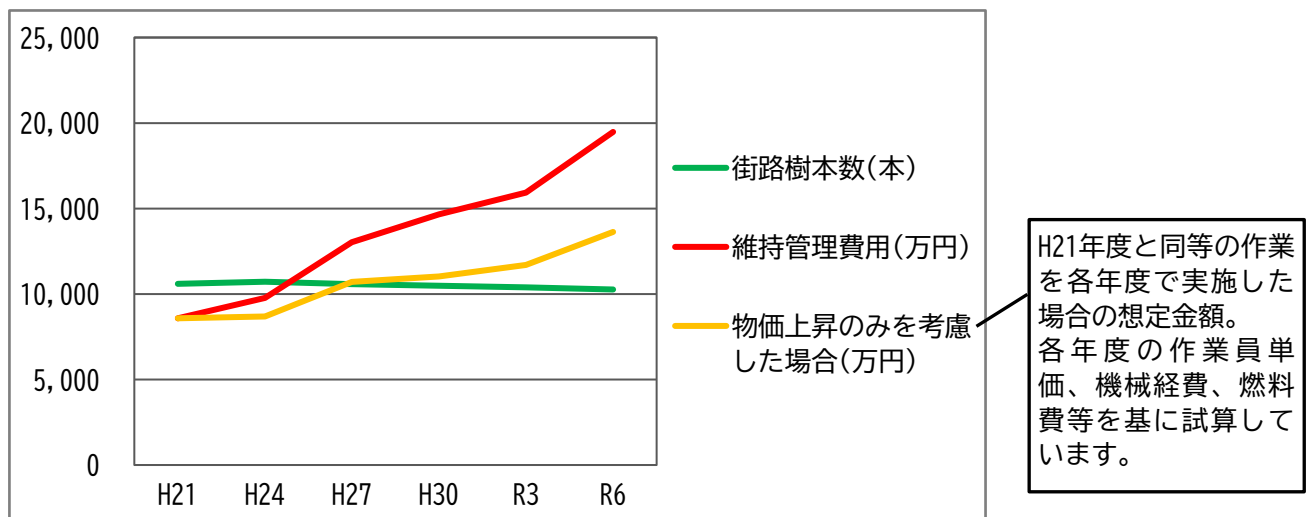


図2-5 街路樹の維持管理費の推移 (H21~R6年度)

2-1-3 市民からの評価

市民からの街路樹の評価がよくわかるのが「さくらまつり」ではないでしょうか。市内のさくら通りで毎春開催されている祭りでは、歩行者天国となっている道路を埋め尽くすほど大勢の人が訪れており、この時が「街路樹が高く評価されている」と一番感じる事ができる瞬間です。

このようなイベントの際だけ街路樹に関わる方もいらっしゃると思われませんが、「家の前に街路樹がある」「通勤・通学、買い物、散歩で通る」等、日々の生活と密接にかかわっている方も多いと思われまます。ここで、平成30年実施の市民アンケートの街路樹に関する部分の結果を見てみましょう。

〈平成30年度 市民アンケート結果(街路樹の部分)〉

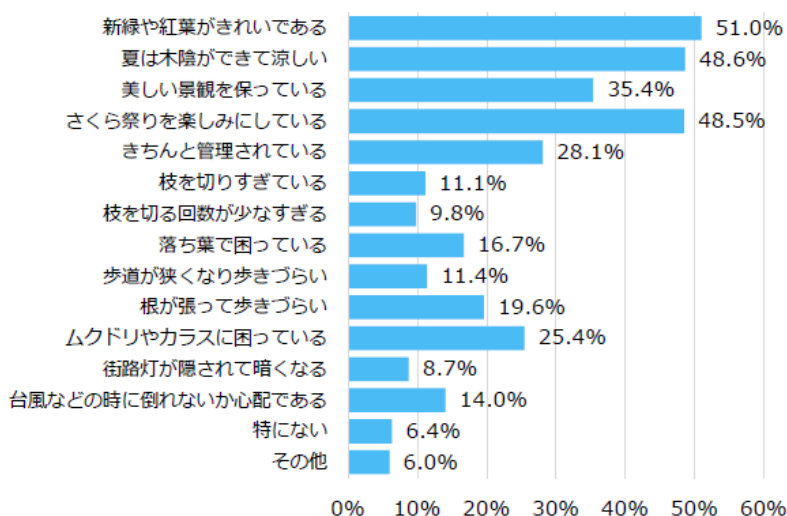


図2-6 市内の街路樹について思うこと (出典：H30年度 市民アンケート)

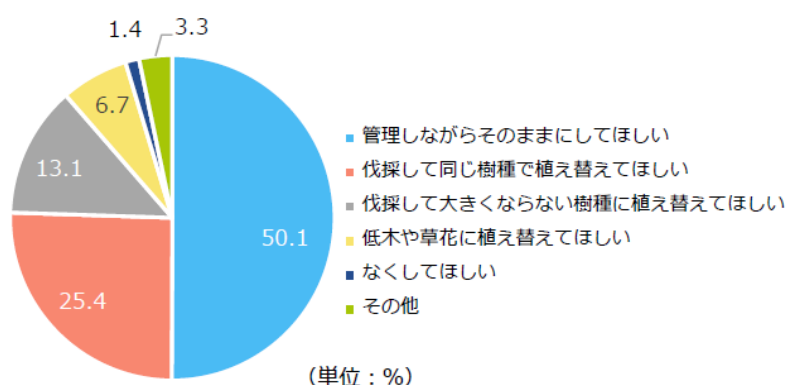


図2-7 大きくなった街路樹や老木となった街路樹への対応 (出典：H30年度 市民アンケート)

「街路樹について思うこと」の結果では、肯定的な意見が多く、ほかに「大きくなった街路樹や老木となった街路樹への対応」のアンケート結果からは、そのままの街路樹の維持管理が50.1%、同じ樹種で植え替えが25.4%、大きくならない樹種に植え替えが13.1%と合計約89%の方が、街路樹の存続を望んでいることがわかります。このように、街路樹そのものは一定の評価をされているものと考えられます。

一方で、街路樹がある道路に面して住んでいる方等からは、日々、要望が寄せられており、特に大木になっているものについて、たいへん厳しい意見をいただくこともあります。

同じ街路樹に対して、立場や生活環境の違いにより様々な意見があり、街路樹の整備・管理を進めていくことの難しさを改めて認識させられます。

2-1-4 本市の代表的な街路樹(高木)

本市の代表的な街路樹の種類と現状を確認しましょう。

松戸には個性豊かな
木がたくさんあるよ！

①ソメイヨシノ(染井吉野 *P.runus × yedoensis*)



科名属名 大きさ等	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 高さ 10~15m程度、幅は 20mを超えることもあります。
樹木の エピソード	サクラの代表的な品種。オオシマザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられ、3月下旬から4月上旬に淡紅色の花が葉に先立って咲きます。江戸時代後期に江戸の染井村で誕生し、当初は「吉野桜」として、明治に入ってから「染井吉野」として全国に広がりました。
優れている ところ等	日当りを好む陽性樹木で、成長が早く、早い段階で樹冠を広げた立派な樹木になります。また、どの木も接ぎ木等で増殖されたクローンであるため、個体差が無く同時期に一齐に花が咲き、華やかな景観をつくります。横に広がった枝葉により、夏には大きな緑陰を形成します。秋には紅葉しますが、一齐に赤くならず、早めに落葉してしまうことも多いです。
植栽・管理 メモ	自然樹形とするのが一番見栄えがしますが、枝が下がりやすく、街路樹としては車両等に当たらないよう、頻繁な手入れが必要になります。また、自然樹形では枯れ枝が発生しやすく、枯れ枝の点検が必要です。サクラ属の中ではてんぐ巣病にかかりやすいとされています。病害虫では、8月以降のモンクロナシャチホコに注意が必要です。平成20年頃まで頻発していたアメリカシロヒトリは、近年ほとんど発生しなくなりました。



開花 (小金原)



紅葉 (紙敷)



低い枝で信号が見えにくい



狭い歩道では太い幹は窮屈

②ケヤキ(樺 *Zelkova serrata*)

科名属名 大きさ等	ニレ科ケヤキ属 落葉広葉樹 高さ 15~20m程度に成長、幅は 20mを超えることがあります。
樹木の エピソード	日本原産の落葉高木で、山地や川岸に多く生育しています。街路樹の中でも良好な景観づくりに秀でており、定禅寺通り（宮城県仙台市）、表参道（東京都渋谷区）、馬場大門通り（東京都府中市）等が名所となっています。木目が美しく、耐久性もあるので、昔から家具材や建築材として利用されています。
優れている ところ等	日の当たるところでは、大きく成長して樹冠を広げ木陰を形成します。成長が早く大木になり、ほうきを逆さまにしたような美しい樹形となります。新緑は特に美しいです。さらに、枝が横に広がるため、大きな木陰を形成して夏には涼しい並木道となります。せん定に強いことも特徴で、強めにせん定しても、すぐに新しい枝が出てきます。秋には赤色、黄色、茶色と木によって様々な色になりますが、気候条件の影響なのか、色づきの良さは年によってばらつきがあります。
植栽・管理 メモ	成長が早く大木となる樹木のため、なるべく面積の広いスペースに植栽するのが望ましいです。自然樹形での管理が最も見栄えがよいですが、枯れ枝が発生しやすく、枯れ枝の点検が必要です。木が大きいと、枯れ枝を探すのは大変ですが、枝が落下する際は、高い所から落下するため、事故が起きた場合の被害が大きくなります。せん定には耐えますが、強めのせん定後は垂れるような枝が出て、樹形が悪くなります。木が大きいと、どのような手入れも大がかりとなり、費用面を含めて美しく安全に管理することが難しい木です。



ケヤキの新緑



ケヤキの紅葉



強せん定直後の状況



枯れ枝の落下

③イチョウ (銀杏 *Ginkgo biloba*)

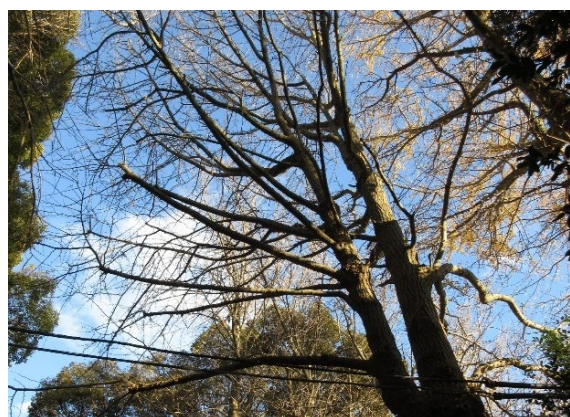
科名属名 大きさ等	イチョウ科イチョウ属 落葉樹 高さ 20~30m程度に成長
樹木の エピソード	イチョウは雌雄異株（雌と雄が別の木）の裸子植物で、ジュラ紀に栄えた種の生き残りです。中国にわずかに残った樹木を繁殖させ、世界中に広まりました。雌の木になる銀杏は、炒って食用にされます。寿命が長いので、各地に巨樹や老樹があり、大枝から乳と呼ばれる垂れる気根が発生するため、安産祈願として御神木になる樹木も多くあります。
優れている ところ等	せん定に強く、植栽スペースに応じたせん定管理が可能です。秋の黄葉は見事で、猛暑や冷夏等その年の気候条件に関わらず、安定して黄色くなります。強風や病害虫にも強く、せん定以外はあまり手がかかりません。また、耐火性があり、火事の際に延焼を防いだ事例がいくつもあります。
植栽・管理 メモ	丈夫で寿命が長く、道路沿いの厳しい環境でも、順調に成長し太くなるため、将来的に植樹マスの寸法に合わなくなることが懸念されます。また、雌の木は銀杏がなるため、熟す秋には道路に落ちて悪臭や汚れの原因になることがあります。そのため一般的に公共の場では雄の木を植栽します。管理上優れている点の多い木ですが、近年大きな枝が突然落下する事故が発生しており、太い枝を長く伸ばし過ぎないように注意が必要です。



イチョウの黄葉



イチョウの新緑



横向きに長く伸びる枝に注意



街路樹では少ないが雌の木には銀杏がなり秋の風物詩となる。ただし臭いは不評。

④アメリカフウ (アメリカ楓 *Liquidambar styraciflua*)

科名属名 大きさ等	フウ科フウ属 落葉広葉樹 高さ 20m程度に成長
樹木の エピソード	北中米原産の落葉高木で、別名は「モミジバフウ」です。松戸市には「あめりかふう通り」と記された並木通り名称板があり、「一見どこがアメリカ風なのか?」と思われるかもしれませんが、アメリカフウのフウは「楓」という漢字を使います。日本では「楓」を「かえで」と読みイロハカエデやトウカエデ等が属するムクロジ科カエデ属の木に使用することが一般的です。アメリカフウはフウ科であり、全く別種の植物ですが、葉の形が似ていて紅葉がきれいなために、「アメリカ楓」の「楓」が「かえで」になってしまったのかもしれませんが。ちなみに漢字の本場中国では、ムクロジ科カエデ属の木には「槭」という字を使うようです。葉の付き方や実の形がアメリカフウとカエデ属の木では異なるため、違いを観察してはいかがでしょうか。
優れている ところ等	整った樹形で、幹はまっすぐに伸びます。生長が早く、萌芽力があり復元性が高い樹木です。秋には見事に紅葉して美しい景観を形成します。街路樹としては、イチヨウと並んで気候に関わらず安定して秋に美しく色づく樹種の一つです。
植栽・管理 メモ	害虫は、年に2～3回発生するアメリカシロヒトリに注意が必要です。また、道路沿いの厳しい環境でも成長し続けて太くなるため、将来的に植樹マスの寸法に合わなくなることが懸念されます。葉の大きさ・形状の影響なのか排水溝の網にひっかかりやすく、排水不良の原因になることがあります。



アメリカフウの紅葉



アメリカフウの新緑



実は独特の形



左アメリカフウ (互生…葉が交互につく)



右トウカエデ (対生…2枚の葉が同じ部分につく)



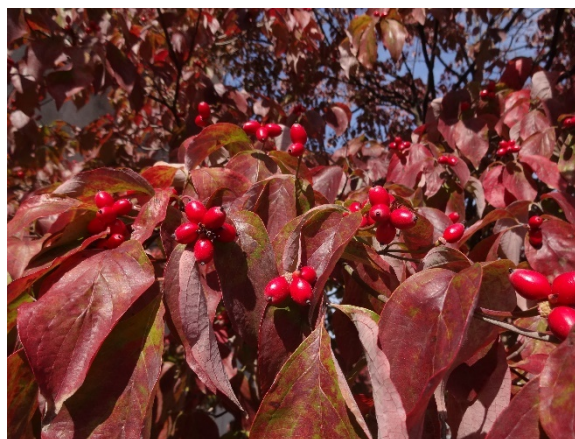
アメリカシロヒトリによる初期の被害状況
放置するとあっという間に丸坊主になる。

⑤ハナミズキ(花水木 *Cornus florida*)

科名属名 大きさ等	ミズキ科ミズキ属 落葉広葉樹 高さ 5～10m程度に成長
樹木の エピソード	北米原産の落葉小高木です。4～5 月頃に白やピンクの華やかな花が咲き、秋に紅葉します。大正時代の初めに、東京市長がアメリカへサクラの苗木を送った際に、その返礼として送られてきた「日米親善の木」として知られています。この樹種名がタイトルの歌が流行したため、一気に知名度が上がりましたが、本市の街路樹では「薄紅色の～」ではなく白い花が圧倒的に多いです。
優れている ところ等	花と実と紅葉の三拍子揃った落葉花木です。成長が遅くあまり大きくならないため維持管理費を抑えることができます。こうしたことから、街路樹としての植栽本数は、昭和 57 年の全国 32 位から、平成 4 年には 11 位、平成 14 年には 4 位と急上昇しています。
植栽・管理 メモ	比較的小ぶりの木で樹高が低いため、街路樹の場合、車道側に枝を伸ばしにくく、樹冠が小さいため木陰も少なめです。夏に雨が少ないと弱ることもあり、たくましさ欠缺るところがあります。また、うどんこ病も発生しやすいため、注意が必要です。街路樹としては、維持管理費の削減や美観的には効果が高い一方、大きくなりにくいこと等による課題も多い木です。



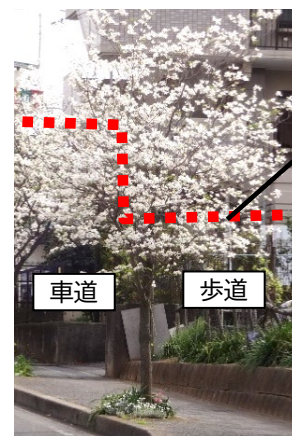
ハナミズキ開花



ハナミズキの実



ハナミズキ紅葉



建築限界 (P2参照) に基づいたせん定を行うと赤い点線より下の枝はなくなってしまいます。

樹高が高くなりにくい

⑥マテバシイ(馬刀葉椎、全手葉椎 *Lithocarpus edulis*)

科名属名 大きさ等	ブナ科マテバシイ属 常緑広葉樹 高さ 10m程度に成長
樹木の エピソード	日本原産で九州から沖縄の暖温帯、亜熱帯に自生している常緑高木です。潮害や大気汚染に強く、様々な場所で植えられています。ブナ科の植物にはドングリが出来ますが、マテバシイのドングリは中でもかなり大きい部類です。本種は、6月に花が咲き、秋には小さい実を付け、翌年の秋に成熟し、2年越しでドングリとなります。
優れている ところ等	生長はやや早く、萌芽、復元力にも優れています。防火性、耐潮性にも優れています。ソメイヨシノ、ケヤキ、イチョウ等のような巨木にはならず、比較的コンパクトな樹形に仕立てやすいです。潮風に強いため、海岸近くの緑化樹としてよく利用されています。
植栽・管理 メモ	過酷な環境にも耐えられる比較的丈夫な木ですが、本市では低地部のマテバシイについては生育不良の問題が起きています。秋に強せん定を行うと冬の寒さで樹木が衰退しやすいため、注意が必要です。また、強風には強い一方、大雪の際に着雪により枝折れすることがあります。害虫はカイガラムシに注意が必要です。



高低差がある通りのマテバシイ。台地部（左）と低地部（右）では生育がかなり異なる



マテバシイの実。本州産のどんぐりとしては最大級



着雪により折れた枝。風には強いが雪には弱い。



ちょっとブレイク② 「欂」読めますか？

「欂（ケヤキ）」という漢字は読めますか？ 以前は読める人は少なかったかもしれませんが、あるアイドルグループのおかげで、書けないけど読める人は増えたのではないのでしょうか。欂の右側の部分は「拳」の旧字体ですが、木へんに拳でなぜケヤキになったのかは、何を調べても出てきません。「拳」には「持ち上げる」、「事を起こす」、「多くのものなかから取り上げる」といった意味があります。木材として優れていて、「重要な建物の木材として採用された（取り上げられた）ため」、と本コラムでは予想します。

欂

普通の大きさではわかりにくいため、大きく表示してみました。



ちょっとブレイク③ イチョウには雄と雌がある

イチョウには雄と雌の木があります。イチョウの実がいわゆる銀杏で実がなれば喜んで拾う人もいるかもしれませんが。ただ、この実のにおいが臭いため、どちらかというとなんか嫌われ者で、街路樹も基本的には実がならない雄の木を植えています。ただし、植える際に雌の木が混じったのか、まれに実をつけている街路樹を見ることがあります。街路樹は定期的にせん定しているためか、実がなっても少ないことが多く、お寺や神社にある枝を大きく伸ばしているイチョウの方がたくさん実をつけます。なお、雄と雌がある木で街路樹に利用されている木としては、他ではヤマモモ（P31）が知られています。カツラ（P37）はイチョウやヤマモモのように実が目立っていないのであまり知られていませんが、雌と雄の木があります。



春にイチョウの根元に大量に残っている銀杏。現代では拾う人は少ないようです。



ちょっとブレイク④ どんぐりは食べられる？

熊が里に下りてきて人を襲ったといったニュースで、里に下りてくる理由として、「今年はどうどんぐりが不作であるため」といった専門家の見解が紹介されることがあります。熊は果物やはちみつが好きで、人間に好み近いので、熊が好きなどんぐりは、人間も食べられるのでは？ と考える人もいるかもしれません。その答えは、「食べられるものもある」です。食べられるもののうちのひとつが、街路樹でもよく使われるマテバシイで、軽く煎ってから食べると、まずまずの味（個人の感想です）です。その他にスダジイ等の食べられるものもありますが、多くのどんぐりは渋いようです。熊は渋いのは平気なのでしょう。



⑦ユリノキ (百合木 *Liriodendron tulipifera*)

科名属名 大きさ等	モクレン科ユリノキ属 落葉広葉樹 高さ 20m程度に成長
樹木の エピソード	北アメリカ原産で、葉が和服のはんてんの形に似ておりハンテンボクとも言われています。また、5月～6月頃チューリップのような形の黄緑色の花が咲くことから英語ではチューリップツリーと呼ばれます。北アメリカから明治初期に渡来し、各地に植えられました。
優れている ところ	幹は真っすぐに伸びて円錐形の樹形になります。強せん定に耐え、生長は早く、萌芽力があり、厳しい環境にも強い樹種です。秋に黄葉しますが、街路樹として植える場合、「美しい」にあと一歩足りない感じです。個性的な花は美しい一方、手入れの頻度が多い街路樹では花が咲きにくく、咲いた場合も木の高いところで咲くことが多いため、目立たないのが残念です。
植栽・管理 メモ	ユリノキヒゲナガアブラムシという害虫の発生に注意が必要です。また、根元にベッコウタケ等の腐朽菌が発生しやすいため、注意が必要です。細い枝は強風によって折れやすく、台風の後にはたくさん枝が落ちていることがあります。道路という厳しい環境でも成長し続けて太くなるため、将来的に植樹マスの寸法に合わなくなることが懸念されます。



ユリノキの新緑



ユリノキの花



ユリノキの黄葉



ユリノキヒゲナガアブラムシ



強風で折れた枝

⑧トチノキ (栃ノ木 *Aesculus turbinata*)

科名属名 大きさ等	ムクロジ科トチノキ属 落葉広葉樹 高さ 13~20m程度に成長
樹木の エピソード	北海道から九州まで、溪流沿いの肥沃地や山地の沢沿いに生息する日本の固有種です。5 月頃に白い円錐型の花を付けます。天狗のうちわに似た大きな葉を持ち、秋に美しく黄葉し、栗に似た実をつけます。実はアクを抜いてトチ餅として食用されます。材は木目が美しく、家具や楽器等に利用されています。シャンゼリゼ通り（フランス、パリ）の街路樹のマロニエは本種と同じ仲間です。市内の街路樹のトチノキが「オー・シャンゼリゼ」の歌が流行った昭和46年頃以降に植えられたものが多いのは、パリの街並みへのあこがれがあったのかもしれませんが。
優れている ところ等	個性的な大きな花が咲きます。樹形は球形で、大きな葉は特徴的な5~7枚の掌状複葉で、木陰をつくります。大きくなるため、ゆったりした空間に植栽するのが望ましいです。山地では美しく黄葉しますが、市街地ではきれいに色づかないことが多いです。同属のベニバナトチノキ（P53で改めて紹介します）は、本種より大きくなりやすく、花付きが良いことから、近年利用が増えています。
植栽・管理 メモ	せん定にはある程度耐えますが、強いせん定は避けた方が望ましいです。花を咲かせたいところですが、定期的なせん定による管理では花が咲かない傾向にあります。害虫はトチノキヒメヨコバイに注意が必要です。



盛夏のトチノキ



トチノキの花



トチノキの葉（掌状複葉）



公園等ではきれいに黄葉することも多い



街路樹では鮮やかな色になりにくい

⑨クスノキ(樟、楠 *Cinnamomum camp.hora*)

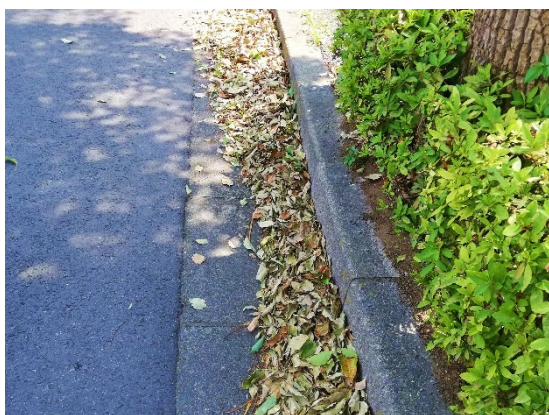
科名属名 大きさ等	クスノキ科ニッケイ属 常緑広葉樹 高さ 15~20m程度に成長
樹木の エピソード	九州の暖地に自生していたとされる常緑高木です。大径木となり、巨樹、老樹として各地で神社仏閣の御神木や天然記念物として大切にされることが多いです。クスノキの葉には、防虫・消臭効果がある樟脳が含まれ、さわやかな匂いを感じることができます。
優れている ところ等	常緑樹としては明るめの緑色で、春の新芽は赤味を帯びた美しい色です。非常に大きくなる樹種ですが、せん定に強く、植栽スペースに応じたせん定管理が可能です。病害虫もほとんど発生しません。
植栽・管理 メモ	丈夫で寿命が長く、道路沿いの厳しい環境でも、順調に成長し太くなるため、将来的に植樹マスの寸法に合わなくなることが懸念されます。街路樹に使用される常緑樹の中では特に大きく育つため、春に落葉する葉の量が多く、本市における春から初夏の落ち葉に関する要望のほとんどがクスノキによるものです。病害虫の被害はほとんどありませんでしたが、近年カメムシやアザミウマといった吸汁性の害虫に起因する炭疽病（たんそびょう）により、樹勢が弱る木が見受けられます。



新緑のクスノキ



盛夏のクスノキ



5月~6月は落ち葉が多い



幹はかなり太くなる

⑩トウカエデ(唐楓 *Acer buergerianum*)

科名属名 大きさ等	ムクロジ科カエデ属 落葉広葉樹 高さ 10~15m程度に成長
樹木の エピソード	中国南東部および台湾を原産とするカエデの仲間です。日本には江戸時代の18世紀初めに中国から渡来しました。記録によれば、江戸時代8代将軍の徳川吉宗が、将軍家の植木職人である伊藤伊兵衛に、ミヤマカエデに接ぎ木したトウカエデを栽培・普及するように命じたとされています。
優れている ところ等	日本産のカエデ類に比べ、成長は早く強健であることから、カエデ類では最も多く街路樹に利用されています。せん定に耐えるので、比較的狭い空間でもコンパクトな樹形とすることができます。また、枝が固く、風や雪の被害はほとんどありません。秋には美しく色づきます。黄色い場合が多い印象ですが、赤くなる木もあります。
植栽・管理 メモ	萌芽力が強く樹形が乱れやすいので、どのように整えるのか決めてせん定等を行う必要があります。病害虫はアブラムシやうどんこ病に注意が必要です。



トウカエデ黄葉



トウカエデ紅葉



トウカエデの葉



アブラムシが発生しやすい

ちょっとブレイク⑤ クスノキと一緒にセミが来た？

関東地方で夏のセミと言えば「アブラゼミ」や「ミンミンゼミ」が多い印象ですが、それらよりサイズが一回り大きく、鳴き声もかなり大きい「クマゼミ」が関東でも増えているようです。松戸の近くでは江戸川区や市川市でも目撃（耳撃）情報があり、松戸にもいるかもしれません。本来、クマゼミは静岡県以西に生息とされていますが、なぜ関東で増えてきたのでしょうか？ 所説ある中で、本コラムは「クスノキの大木を西日本から移植した際に、根鉢の土の中に幼虫がいて、クスノキと一緒に引っ越してきた」説が有力と考えます。例えば、幹の太さが直径25cm程度の本を移植する場合、根と一緒に2立方メートル以上の土がくっついてきます。それだけの土の量ならば、セミの幼虫がたくさんいても不思議ではありません。クマゼミに限らず、大木の移植には、セミの引っ越しが伴うことが多そうです。



市川市北部で見つけたクマゼミ。アブラゼミよりひと回り大きい。



ちょっとブレイク⑥ ユリノキの枝はやわらかい

戦国武将の毛利元就の「3本の矢の教え」はご存じですか？ 簡単に言うと「1本の矢は手で折ることができるが、3本まとめれば折れないことから、3人で力を合わせれば、成し遂げられる」という教えです。上司の方が3人の部下の前で毛利元就のまねをする場合、ユリノキの枝は絶対に使わないでください。枝が柔らかいので3本でも簡単に折れます。



3本の矢の教え失敗!! (写真の人は普通の腕力です。)

ちょっとブレイク⑦ トウカエデの枝は硬い

定期的にせん定を行っている街路樹の中では、トウカエデの枝は非常に硬く、せん定作業がたいへんで、ちょっとした造園業者さん泣かせの木となっています。ちなみに大谷翔平選手が大リーグでホームラン王になったとき（2023、2024年）のバットはメープル（サトウカエデ）製で、トウカエデもその仲間です。メープルはその硬さゆえにボールを芯でとらえると、大谷選手のような、ものすごい打球速度や飛距離となるのです。トウカエデの枝なら「2本の矢の教え」もできそうです。



上記ユリノキの枝より細いトウカエデの枝は2本でも折れませんでした



①サルスベリ(百日紅 *Lagerstroemia indica*)

科名属名 大きさ等	ミソハギ科サルスベリ属 落葉広葉樹 高さ5～8m程度に成長
樹木の エピソード	中国南部原産の落葉高木です。樹皮がなめらかなため、猿も滑り落ちると言う意味で名前が付きました。江戸時代以前に日本に渡来し、各地で植えられました。漢字で「百日紅」と書くように、花期は7月～10月と長いです。一つの花が長く咲くのではなく、新しい花が次から次へと咲きます。
優れている ところ等	木の花が少ない夏に、長期にわたって枝先に房状の花を次々と咲かせる観賞価値が高い樹木です。意外と言っては失礼ですが、秋には葉が赤や黄色に美しく色づくことが多いです。従来型のサルスベリは樹高が高くなりやすく、あまり街路樹向きではありませんでしたが、近年では、直幹型で樹高が高くなる品種が流通するようになり、街路樹として利用しやすくなりました。
植栽・管理 メモ	樹形が乱れやすく、ひこばえもよく出るため、定期的な手入れが必要です。また、本市では植えてから3年程度経過したものが、台風の強風に耐えられず、倒れてしまったことがありました。支柱を外すタイミングと品種選びは慎重に決定する必要があります。病害虫はうどんこ病とアブラムシに注意が必要です。



8月のサルスベリ



サルスベリの花



直幹型のサルスベリ



サルスベリの紅葉



名前の由来になっている滑らかな幹。品種の違い等によっていろいろなタイプがある。

⑫ヤマモモ(山桃 *Myrica rubra*)

科名属名 大きさ等	ヤマモモ科ヤマモモ属 常緑広葉樹 高さ5～10m程度で管理することが多いが20m以上になることもある。
樹木の エピソード	千葉県以西に分布し公園や道路によく植えられています。雌の木と雄の木があり、雌の木には6月頃、直径1.5～2cm程の赤い実がなります。山に生える桃ということで「山桃」なのですが、「桃」とは見た目も味もかなり違います。それでも、緑化樹の実としてはおいしい部類です（個人の感想）。本市の街路樹のうち約1/3が雌で、せん定直後は実がなりにくいのですが、3年くらいするとたくさん実がなります。実がなると喜ばれるよりは、道路を汚すため嫌われることが多いのが実情です。
優れている ところ等	せん定に耐えるので、比較的狭い空間でもコンパクトな樹形とすることができます。あらゆる環境に耐え、風の被害もほとんどありません。また、病害虫も比較的少ないです。
植栽・管理 メモ	実が豊作の場合、道路を汚してしまうのが悩みの種です。クスノキ程大きくならないため、常緑樹の街路樹としては管理しやすい部類です。実がなるのを嫌って雄の木ばかり植えると、花も地味なため、あまり特徴がない並木となってしまいます。



冬季のヤマモモ



ヤマモモの実（6月下旬）



ヤマモモの花 左が雌花 右が雄花（3月下旬）



道路に落ちた大量の実

⑬ニセアカシア(ハリエンジュ *Robinia p.seudoacacia*)

科名属名 大きさ等	マメ科ハリエンジュ属 落葉広葉樹 高さ 10~20m程度に成長
樹木の エピソード	北米原産の落葉広葉樹です。正式和名はハリエンジュですが、ニセアカシアと呼ぶ方が一般的です。日本には 1873 年に渡来したと言われており、根が根粒菌と共生して窒素固定を行うため、やせ地でも良く育つ強健な樹木です。花は白色の総状花序を出して咲きます。ミツバチの蜜源としても重宝されることから様々な場所に植えられてきました。現在では、強い繁殖力と切り株や根からの萌芽力が極めて高いこと等で、日本の在来種の生態系に被害をもたらしており、「生態系被害防止外来種」に指定されています。その中では、産業上重要だが、適切な管理が必要な「産業管理外来種」に区分されています。
優れている ところ等	成長が早くどんな土地でも良く育ちます。4月下旬~5月上旬に咲く白い花は美しく、はちみつを思わせる香りがします。せん定にも強く、病害虫もほとんど発生しません。
植栽・管理 メモ	強いせん定に耐えますが、せん定後によく出る胴ぶきやひこばえにトゲがあることがあり、歩行者に危険を生じさせる可能性があるだけでなく、せん定作業の際には、手に刺さらないように注意が必要です。強風に弱く、台風による倒木が多い樹種の一つです。



初夏のニセアカシア



ニセアカシアの花



ちょっとブレイク⑧「アカシアはちみつ」はニセ物？

アカシアはハチミツの蜜源として有名ですが、アカシアのハチミツとして売られているものが実は「ニセアカシア」のハチミツであることをご存じでしょうか。植物学上では、アカシアはマメ科アカシア属の植物の総称で、日本ではフサアカシアやギンヨウアカシア等が植えられています。一方、ニセアカシアはマメ科ハリエンジュ属のため、ニセ物というより別物です。なぜハチミツになると「ニセ」が取れてしまうのかはわかりませんが、「純粋ニセアカシアはちみつ」で売られていたら、聞こえが悪いのかもしれませんが。



商品名は「アカシアはちみつ」だが、パッケージの絵は「ニセアカシア」の花



ギンヨウアカシアの花 (マメ科アカシア属)

⑭サクラ‘カンザン’ (関山 *Cerasus Sato-zakura Group. Sekiyama Kodz*)-

科名属名 大きさ等	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 高さ 8m程度に成長
樹木の エピソード	オオシマザクラ系の八重桜の代表的な樹木です。ソメイヨシノの開花が終わった4月上旬から下旬にかけて濃い紅色の花を咲かせます。花びらが 40 枚前後と多く、花の色が派手なこのサクラは、ヨーロッパで大変人気があり、フランスのパリにはカンザンの名所となっている公園があります。なお、お祝いの席で出される桜湯は、本種の花の塩漬けにお湯を注いだものです。
優れている ところ等	八重桜の中では樹勢が強く生長が良いですが、ソメイヨシノ程には大きくなりません。ソメイヨシノの開花が終わってから咲き始めるので、この木があると長くサクラの花を楽しめます。
植栽・管理 メモ	枝が下がってくるため、交通対策のせん定が必要になります。病害虫では、8月以降のモンクロシャチホコに注意が必要です。10 年ほど前まで頻発していたアメリカシロヒトリは、近年ほとんど発生しなくなりました。



開花期のカンザン (4月中旬)



カンザンの花

ちょっとブレイク⑨ 桜湯が出される理由は？

お祝いの席で出される桜湯は、サクラ‘カンザン’を使用しているのは上記のとおりですが、なぜ桜湯なのでしょう。実際に桜湯を入れてみるとわかるのですが、塩漬けで萎んでいた花が、お湯の中で桜餅と同じ香りを漂わせながら、花びらが徐々に広がって、上品な華やかさとなります。花びら40枚程度のカンザンでちょうど良いので、5枚のソメイヨシノ等ではちょっと地味なのでしょうね。この華やかさがお祝い席にピッタリなのが桜湯を出す理由の一つなのでしょうが、もう一つよく知られているのが、祝いの席で「お茶を濁す」ことのないようにお茶ではなく桜湯を出すという理由です。確かに結婚式では、両家の方々も初対面が多く緊張していて、思わず「お茶を濁す」ことを言ってしまうそうですね。



写真では伝わりませんが桜餅と同じ香りがします。

⑮台湾フウ(台湾楓 *Liquidambar formosana*)

科名属名 大きさ等	フウ科フウ属 落葉広葉樹 高さ 20m程度に成長
樹木の エピソード	台湾や中国南部原産の落葉高木です。葉は3つに分かれ、5つに分かれるアメリカフウと区別できます。樹脂には独特の芳香があり、楓香脂と呼ばれ薬に用られています。松戸市には「たいわんふう通り」と記された並木通り名称板がありますが、どこが「台湾風」なのか?と思われるかもしれません。
優れている ところ等	幹はまっすぐ伸びて直幹となります。生長は早く円錐形にまとまり易いです。萌芽力があり復元性が高い樹木で、葉の色が秋には黄葉から紅葉へと変化します。
植栽・管理 メモ	近縁のアメリカフウに比べて、寒さに弱く、秋に美しく紅葉するときもあれば、茶色く枯れたようになるときもあり、色づきが安定していません。また、落葉が遅いことが多く、1月になっても葉がたくさんついていることがあり、季節感に欠ける面があります。



台湾フウ黄葉



台湾フウ紅葉



台湾フウの葉



1月上旬の状況。落葉する時期が遅く、きれいに色づかないことも多い

⑩コブシ(辛夷・拳 *Magnolia kobus*)

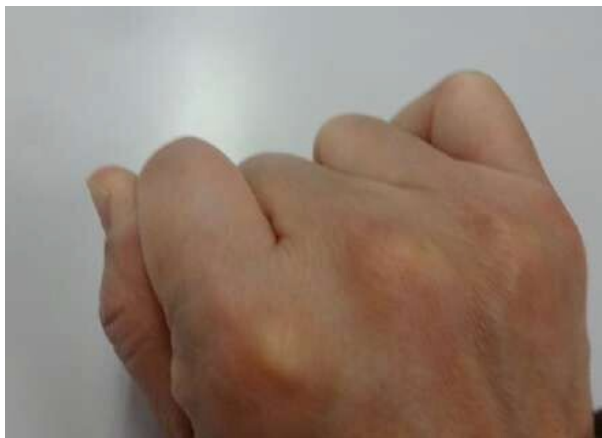
科名属名 大きさ等	モクレン科モクレン属 落葉広葉樹 高さ 10~15m程度に成長
樹木の エピソード	早春に葉が展開する前に、他の木に先駆けて白い大きな花を付けます。コブシの名前の由来は諸説ありますが、果実（集合果）の形を握りこぶしに見立てたという説が有力と思われます。
優れている ところ等	ソメイヨシノより開花が早く、一足先に春の到来を告げます。大きな白い花は美しく、サクラとは違った趣があります。病害虫もほとんど発生しません。
植栽・管理 メモ	コブシはせん定にも耐えますが、花を美しく咲かせるには自然樹形が理想です。大きくなった後の管理は、花を咲かせるための適切なせん定が必要です。



開花期のコブシ



コブシの花



コブシの実と拳（こぶし）

⑰アンズ(杏 *P.runus armeniaca*)

科名属名 大きさ等	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 高さ 6~8m程度に成長
樹木の エピソード	中国北部原産の落葉中高木で、果樹として各地に植えられました。中高木のアンズは、同じくバラ科のサクラやウメに似ている淡いピンクの花を、ソメイヨシノより少し早く咲かせます。いつごろ日本に渡来したかはよく分かっていませんが、平安時代には唐桃の名で呼ばれていたようです。果実はシロップ漬けやジャム等にとすると大変美味しいです。
優れている ところ等	サクラほどの華やかさはありませんが、見栄えのする花を咲かせます。街路樹として植えられるのは珍しいです。ソメイヨシノのように大きくならないため、狭い空間でも植えることができます。
植栽・管理 メモ	果樹は全般的に管理が難しいイメージがありますが、アンズは病気の発生もなく、かつてよく発生していたアメリカシロヒトリも近年はほとんど出ないため、それほど手がかかりません。ただし、樹高が低めのため、車や歩行者に枝が当たらないような管理が必要です。



開花期のアンズ



アンズの花

ちょっとブレイク⑩ 梨は品種によって花が違う

アンズは街路樹より果樹としての利用が圧倒的に多いですが、松戸の果樹と言えは何といても「梨」です。梨は品種によって味や食感が異なりますが、花びらの枚数が違うのはご存じでしたか？ 品種別には「幸水」や「豊水」は花びらが8~10枚、「新高」や「かおり」は花びらが5枚なのです。一般人が梨の木に近づくのは梨狩りの時くらいなので、なかなか気が付きませんよね。



「幸水」「豊水」は花びらが8~10枚



「新高」「かおり」は花びらが5枚



⑱カツラ(桂 *Cercidip.hyllum jap.onicum*)

科名属名 大きさ等	カツラ科カツラ属 落葉広葉樹 高さ 13～20m程度に成長
樹木の エピソード	カツラは日本列島および中国の温帯域に広く分布し、この地域にだけ残された独特の樹木です。樹齢が長く、森の精霊、森の番人等と呼ばれることもあり、神木となっている樹木も多いです。秋に落葉が始まると、甘く香ばしい匂いがカツラの葉から立ち込めます。これはマルトールという化学物質によるもので、東北地方では、カツラの葉を乾燥させて抹香として利用してきました。また京都の葵祭では、御輿や行列の飾りつけにカツラの枝葉が使われる等、日本人の文化や生活に深い関わりを持つ樹木でもあります。
優れている ところ等	生長が早く、真っすぐ上に伸びて美しい樹形となります。せん定にも耐え、病害虫も少ないです。秋には美しく黄葉します。
植栽・管理 メモ	本来は自然樹形が美しいため、極力強いせん定は行わない方が望ましいです。湿潤地には強い一方、乾燥地には弱く、植栽環境には注意が必要です。



カツラ新緑



葉はハート型



銀座中央通りに近年植えられたカツラ。
街路樹として人気上昇中。

⑩ユーカリ(有加利 *Eucalyptus*)

科名属名 大きさ等	フトモモ科ユーカリ属 常緑広葉樹 高さ 15~25m程度に成長
樹木の エピソード	ユーカリはオーストラリア原産の固有種で、600 種以上の種類があります。日本国内への導入は明治時代に始まりました。本市はオーストラリアのホワイトホース市と姉妹都市を結んでいますが、きっかけは本市の中学生が、「ユーカリの木を育てたい」との願いから始まっています。ホワイトホース市との姉妹都市交流は 50 年を超えました。本市はユーカリを「市の木」として定めています。
優れている ところ等	成長が早く、どんな土地でも良く育ちます。病害虫もほとんど発生しません。せん定にも強く、強せん定を行っても、数年で立派な樹幹に戻ります。本市に多いビミナリスという品種は、幹肌が白く滑らかでたいへん個性的です。
植栽・管理 メモ	非常に成長が早いため、街路樹として道路のサイズに合わせた樹形を保つには、頻度の高い手入れが必要になります。また、強風に弱く、台風により大木が倒れたり、太い枝が折れることがあります。



上矢切のユーカリ



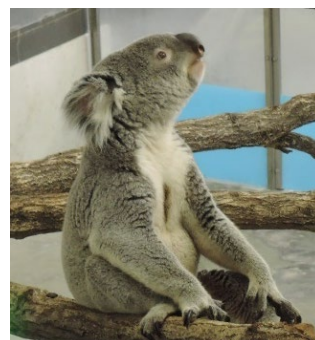
公園内のユーカリ。自然に伸ばすと
どんどん大きくなる。



ユーカリ「ビミナリス」の
滑らかな幹

ちょっとブレイク⑩ コアラがあまり動かない理由は？

本市は長年ユーカリを管理してきましたが、葉に害虫が付いたところを見たことはありません。葉には強い香りがあり、生物にとっては有毒な物質が含まれると考えられます。コアラはユーカリの葉を食べますが、この有毒の物質を分解するために、かなりのエネルギーを使っているという説があります。いつもコアラが眠そうに見えるのは、体内で消化器官が大仕事をしているからかもしれませんね。



2-1-5 本市の代表的な街路樹（低木）

① オオムラサキツツジ（ツツジ科ツツジ属 常緑広葉樹）

ツツジの分類の中ではヒラドツツジの一種です。たいへん丈夫で、道路環境にも耐えるので道路緑化樹としての利用が多く、松戸市内の道路植栽の低木では圧倒的に多く植えられています。4月下旬に咲く赤紫色の花は派手で見ごたえがあり、常緑のため、冬でも貴重な緑の景観をつくります。生育旺盛のため、普通に年1回の刈込で管理すると、少しずつ大きくなり、高くなりすぎて見通しを悪くしてしまうことがあります。また、基本的には丈夫なのですが、アルカリ性土壌では生育が悪くなる傾向があり、植える際には注意が必要です。なお、ヒラドツツジの中には、白色やピンク色の品種もあります。



オオムラサキツツジの花

② サツキツツジ（ツツジ科ツツジ属 常緑広葉樹）

オオムラサキツツジほどではありませんが、比較的丈夫なことから道路緑化によく利用されます。オオムラサキツツジより1ヶ月ほど遅れて、5月中旬以降に花が咲き、常緑樹のため冬の貴重な緑となります。サツキの名前は旧暦の「臯月」（5月下旬～）に花が咲くことに由来します。成長は遅めで根の伸びが浅めのため、特に植栽初期は夏季の乾燥に注意が必要です。



サツキツツジの花

③ ドウダンツツジ (ツツジ科ドウダンツツジ属 落葉広葉樹)

ツツジ科ですが、前述のツツジ類とはかなり印象が違います。4月にスズランに似た釣鐘型の小さい白い花を咲かせます。オオムラサキツツジやサツキツツジの派手さはありませんが、ひかえめな美しさがあります。この木の最大の特徴は、低木としては珍しく秋に美しく紅葉することで、花より紅葉の方がこの木の一番の魅力と言っても過言ではありません。サツキツツジと同様、植栽初期は夏季の高温乾燥に注意が必要です。



ドウダンツツジの紅葉



ドウダンツツジの花

④ アベリア (スイズカラ科ツクバネウツギ属 半常緑広葉樹)

低木の道路緑化樹として利用の多い木です。この木の最大の特徴は開花期間の長さです。図鑑等には開花期は6月～10月等と書いてあることが多いですが、5月から12月まで咲いていることもあります。枝の伸びが良く、すぐに歩行空間まで伸びてきてしまうため、ツツジのように年1回ではなく、複数回の刈込を要する場合があります。半常緑樹と表現されるように、冬季は葉が少し減りますが、残っている葉も多いです。枝が良く伸びることから維持管理費用の面で敬遠されがちでしたが、近年は小型で枝の伸びも弱い品種が流通するようになり、それらが緑化樹としてよく利用されています。



アベリアの花



アベリア 'コンフェッティ'
(小型の品種)

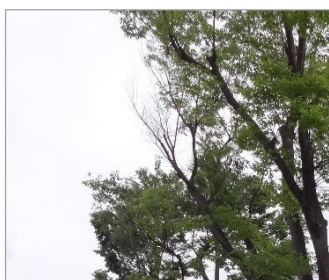
2-2 本市の街路樹の課題

2-2-1 老木化、大木化

令和7年12月現在の本市の街路樹は、植栽してから80年以上経過している八柱霊園前のケヤキをはじめ、常盤平地区は60年以上、その他の場所でも50年以上経過しているものが多い状況です。

- ・自然樹形で管理している樹木は、老木化すると枯れ枝が発生しやすくなり、これらの落下による事故のリスクが高くなります。また、枯れていなくても、太い枝が内部の異常により折れることもあります。

→本状況がみられる樹種：ケヤキ、ソメイヨシノ、サトザクラ



ケヤキ枯れ枝



ソメイヨシノ枯れ枝落下



ソメイヨシノ枝折れ

- ・自然樹形で管理してきたケヤキやソメイヨシノは大木化しており、あらゆる作業に大型の高所作業車が必要になり、維持管理費の負担が大きくなっています。

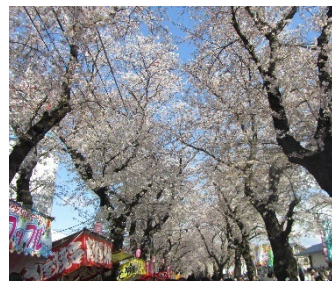
→本状況がみられる樹種：ケヤキ、ソメイヨシノ



隣の集合住宅よりはるかに高いケヤキ



高所作業車でのケヤキの枯れ枝除去作業



横に枝を伸ばせない場合は上によく伸びるソメイヨシノ

- ・成長力が強い樹種は幹が太くなり続けるため、植樹マスの寸法に合わなくなってしまうことがあります。ケヤキやソメイヨシノはもちろんですが、定期的にせん定を行って、樹高や木の幅がある程度の大きさに抑えられているユリノキやアメリカフウ等も、同様の懸念があります。これらの樹種は、根上りもしやすく、さらに根が道路の区域外へ伸びている可能性もあります。

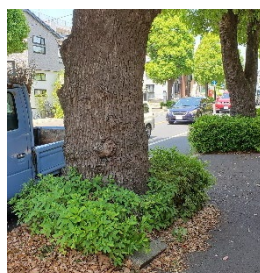
→本状況がみられる樹種：ケヤキ、ソメイヨシノ、ユリノキ、アメリカフウ、クスノキ、イチョウ等



ソメイヨシノ



ユリノキ



クスノキ



ケヤキの根上り

2-2-2環境に合わない樹種等

本市においては、環境に合わないと考えられる樹種や、街路樹として管理する上で課題が多い樹種については以下のとおりです。

①マテバシイ

低地部での生育が悪く、枯れてはいないものの、見栄えが悪いものが多くなっています。

②ハナミズキ

夏の湯水期に弱る場合があり、その影響からか、生育の良くないものが見受けられます。

③エンジュ

かつては多く植えられていましたが、台風等での倒木が多く、さび病を起因とする幹の異常等もあり、新松戸や常盤平では既に樹種変更が行われています。



育ちの悪いマテバシイ



葉が少なく枯れ枝が目立つハナミズキ



エンジュのさび病（幹が変形する）



強風によるエンジュの倒木

④ニセアカシア

その生命力や繁殖力から、外来生物法の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」において、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種」の1つに指定されており、今後積極的に増やすべきではないと考えます。根張りが浅いため台風等で倒れることが多く、トゲがあるひこばえや胴ぶきが出やすいのも課題です。

⑤トチノキ

良い環境で伸び伸びと育てば、花、黄葉、大きな葉っぱ等、見ごたえがある木ですが、狭い歩道の街路樹としてせん定等の管理をした場合、花は咲かず、秋の色づきも悪く、その良さが生かされません。

⑥ユーカリ

市の木には指定されていますが、街路樹としては大きくなりすぎるほか、せん定しても成長が早いため、コンパクトな樹形を保つには非常に手間がかかります。広い公園等でその成長力を生かすべきで、基本的には街路樹には向いていないと考えます。

⑦台湾フウ

アメリカフウと同様に美しく紅葉することもあります。葉が枯れたようになり、うまく色づかないことが多いです。また、落葉樹としては落葉時期が極端に遅く、1月に入ってからようやく葉が全部落ちる等、やや季節感に欠けることがあります。



「トゲナシニセアカシア」という品種でもトゲが発生することがある。



秋のトチノキ。街路樹では鮮やかに色づきにくい。



ユーカリをバツサリ切っても約2年でこのとおり。



1月でも枯れ葉がついている台湾フウ

2-2-3 害虫、キノコ

害虫やキノコ等の病害は、景観上の問題となるだけではなく、街路樹を弱らせる危険な要因となります。ここでは、本市で注意が必要な害虫とキノコの特徴と被害を確認します。

① 害虫

部分的な発生では木の健全度を著しく下げることはありませんが、大量に発生すると葉を食べつくされ生育に支障が出たり、排泄物によって車が汚れる等の被害が出ます。また、毛虫類は見た目上の問題があります。さらに、今後の発生が危惧される害虫もあります。

・アメリカシロヒトリ 幼虫(毛虫)

外来種の蛾で、幼虫が樹木の葉を食べます。かつてはサクラによく発生していましたが、令和7年12月現在、本市では主にアメリカフウに発生します。毒はなく、触れても害はありません。初期の幼虫(毛虫)は葉にクモの巣のような袋状の巣を作って集団生活をしているため、目視で発見しやすく、発生枝を切除することで駆除できます。大きくなってくると分散して食害が一気に進み、木を丸坊主にしてしまうこともあります。



アメリカシロヒトリ
(もう少しすると分散する)

・モンクロシャチホコ幼虫(毛虫)

在来種の蛾で、幼虫がサクラ等の葉を食べます。大量発生すると、木を丸坊主にするほど葉を食われてしまうことがあります。毒はなく、触れても害はありません。フンは赤茶色・黒の楕円形をしています。アメリカシロヒトリのように巣状のものを作らないので、発生初期に発見するのが困難です。



モンクロシャチホコ
(上:初期、下:終齢期)

・アブラムシ

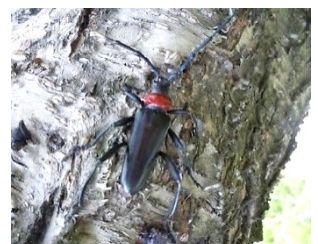
ユリノキやトウカエデに発生することがあります。発生数が多いと霧雨状の粘度のある排泄物が、車や洗濯物に付着する被害が出ることがあります。



ユリノキヒゲナガアブラムシ

・クビアカツヤカミキリ

外来種でモモ、ウメ、サクラ等の幹の内部を幼虫が食害し、被害が大きいと枯死に至ります。在来種のカミキリムシに比べ暴食性で繁殖力も強いため、被害が大きく広範囲となる傾向があります。車両等について移動することもあるため、生息域が広がっていましたが、令和6年10月について千葉県内で初めて柏市で確認されました。今後は松戸市内でいつ確認されてもおかしくない状況です。



クビアカツヤカミキリ
(農林水産省 HP. より)

② キノコ

キノコは種類によって、木に病害をもたらすことがあります。腐朽菌が樹木の切り口や傷口、根腐れ部等から入り込んで木部を腐朽させ、症状が悪化すると倒木や枯死等の原因となります。キノコが発生する部位は大きく分けて根株と樹幹です。

・ベッコウタケ

広葉樹全般に発生するキノコですが、特にサクラに多く見られます。主に幹の根元に発生します。木が養分を葉に送る組織がある表皮の部分は枯らさず、木を支えている根（支持根）を腐朽させます。そのため、葉は繁茂していて風を受けやすい状態にもかかわらず、根が弱っているために、倒木しやすい状況をつくりだしてしまいます。キノコが出ている場合は、すでに木の中では腐朽が進んでいる可能性が高く、根元に発生しているキノコを処分しても根本的な解決にはなりません。そのため、市内のサクラ通りにおいては毎年樹木医による診断を行い、腐朽が進んでいる場合は伐採と診断されます。



ソメイヨシノに発生したベッコウタケ



ユリノキに発生したベッコウタケ

・ナラタケモドキ

主に広葉樹に発生します。梅雨時期から秋にかけて、根や地際に現れるキノコです。傘と柄は薄茶色で、柄は細長く、傘は開くと反り返って漏斗状になります。ナラタケと同様に樹木を衰弱させ、最終的に枯死に至ります。ナラタケとの違いは、柄にツバが無いことで見分けられます。本市では前述のベッコウタケとともに管理上要注意キノコとなっていますが、ベッコウタケは生きたまま倒木しやすいのに対し、ナラタケモドキの発生した木は枯れて葉が落ちてしまうため、倒木に至ることは少ないです。



ソメイヨシノに発生したナラタケモドキ（初期～干からびた状態）

・コフキタケ

ベッコウタケ同様、広葉樹に発生し、市内ではサクラに多く見られます。樹木の地際部から大枝まで様々な部位を腐朽させます。このキノコの多くは幹の部分に発生し、すぐ裏の部分を腐朽させますが、太い幹の場合は、そこから折れるような状況になるまで腐朽が進むことは少ないです。そのため、樹木診断の際にはこのキノコがあっても多くは「経過観察」と診断されます。キノコは半円形で硬く、放っておけば年々成長して大型になります。年に数回、ココアの粉のような茶色の胞子を大量に飛散させることが名前の由来となっています。



ソメイヨシノに発生したコフキタケ

・カワラタケなど

幹や枝に多数が重なり合って発生するキノコで、街路樹ではサクラ類によく発生します。このキノコは発生箇所の内部の木材部分を分解し、スポンジ状にしてしまうことがあります。そのため、このキノコが枝に発生している場合、枝の内部の強度が殆どなくなっている可能性があり、太い枝でも落下の危険性があるため早期の対応が必要となります。

チャカイガラタケ、カワウソタケ等もカワラタケと同様に多数が重なり合って発生し、木材部をスポンジ状にしてしまうことがあるため注意が必要です。

これらのキノコは樹木の枯死または腐朽が進んだ部分に発生するのが特徴です。そのため、例えば幹にカワラタケが確認された場合、その部位だけでなく、そこを通して養分や水分が供給されている枝にも異常がある可能性があります。このことから、カワラタケ類の発生の有無は、樹木の危険度を判断するうえで重要な確認事項の一つと考えられます。



ソメイヨシノに発生したカワラタケ



内部がスポンジ状となった枝は落下すると細かく碎けやすい

3. 街路樹の整備・管理

3-1 街路樹整備と管理の目指す姿・目標

3-1-1 松戸市が目指す街路樹の姿

「並木のまち・まつど」を目指して、市民に親しまれる美しい街路樹の形成

松戸市には、多くの街路樹名が付いた通りがあります。これは、市民が街路樹に関心を持ち、またその関わりを大切にしてきたことの表れです。そのような市民と街路樹の歴史を継承しつつ、全国に誇れる街づくりの根幹として、街路樹整備と市民との関わりを重視していきます。



3-1-2 街路樹の整備と管理の目標

「市民が歩きたくなる街路樹の整備と管理」

昔から街路樹は街道をゆく人の憩いの空間であり、また並木という美しい景観として人々に親しまれてきました。これからも街路樹が有する自然資源や文化、歴史、風土を守り、育てゆくことが重要です。また近年、CO2の削減や地球温暖化対策、激甚化する自然災害への防災対策、生物多様性の保全等環境変化への対応が急務となっています。

これに対して、現在発生している課題（2章）に対する「整備」、そして課題に対応するための継続的な取り組みとして「管理」の両輪で進めていくことが肝要です。

今後の整備・管理における重要な視点としては、①市民への安全な街路樹のありかた、②市民への憩いを提供できる美観や緑陰のありかた、③継続的な管理が可能となる維持管理費軽減のありかた、この3つがポイントとなります。

本章では、既存の街路樹を今後どのように整備・管理をしていくかを中心に考察しますが、今後、新設道路に新たに街路樹を植栽する場合があります。その際に植える樹種の選定については、上記3つのポイントを踏まえたうえで、その地域に合ったものを本ガイドラインで紹介する既存の樹種や、新しい樹種等を候補として検討します。

3-2 街路樹の整備（高木）

ここまで、街路樹の法令・計画、街路樹の役割、街路樹の歴史、各樹種の特長、課題等について確認しました。これらを踏まえ、街路樹が持つ景観向上、環境保全、緑陰形成、防災等の多様な機能の発揮と安全性の確保の両立を目指し、将来にわたる維持管理コストの低減化を踏まえ、今後の整備方針を以下のとおり整理しました。

3-2-1 さくら通り

令和7年12月現在、市内のさくら通りの品種のほとんどがソメイヨシノであり、それぞれ地元からは愛される存在となっています。ソメイヨシノはP18に記載のとおり、大きく成長し花見をする木としてはたいへん優れています。そのため、毎年祭りを開催している通りではソメイヨシノを継続してまいります。

その一方で、P41に記載のとおり、ソメイヨシノは安全面や維持管理費用等の課題も多い品種です。そのため、祭りを実施している通りの他にも多数あるソメイヨシノについては、春に花が咲き美しい景観をつくるイメージは変えずに、ソメイヨシノのように大木化しない他のサクラの品種へ変更を検討します。品種の選定については、下記の選定条件に基づき実施します。

なお、今後も優れた品種がつけられたり、発見される可能性もありますので、随時サクラの品種についての情報収集を行い、祭りが開催されている箇所も含めて、状況に応じて新しい品種を導入し、より良い並木道となることを目指します。

【選定条件】

- ・樹勢が強く、道路上という厳しい生育環境に耐える。
- ・ある程度の木陰が形成できる大きさに成長する。
- ・ソメイヨシノのように大木化はしない。
- ・ソメイヨシノと開花期が近いものを理想とする（植え替えの途中でも統一的な景観となる）。

表3-1 ソメイヨシノに代わるサクラの品種候補一覧

品種名	樹形	ソメイヨシノとの開花時期比較	花の特徴	他自治体での実績
ジンダイアケボノ（神代曙）	傘状	同じかやや早い	ソメイヨシノよりやや赤みが強い	横浜市等
ヨウコウ（陽光）	広卵状	少し早い	濃い赤	江戸川区等
コシノヒガン（越の彼岸）	広卵状	少し早い	ソメイヨシノに似ている	横浜市等
ベニユタカ（紅豊）	広卵状	少し遅い	濃い赤で八重咲き	西東京市等
イチヨウ（一葉）	広卵状	1週間程度遅い	ソメイヨシノと似た色で八重咲き	台東区等



ジンダイアケボノ（横浜市）



ヨウコウ（江戸川区）



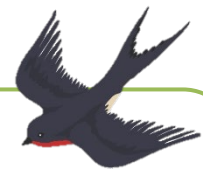
コシノヒガン（横浜市）



ベニユタカ（西東京市）



イチヨウ（台東区）



ちょっとブレイク⑫ ソメイヨシノはすべてクローン

桜の品種はたくさんありますが、日本の代表する桜と言えやはり「ソメイヨシノ」ではないでしょうか。この桜は同じところに植えられていれば、どの木も同時に開花するので、見事な景観をつくります。なぜ同時に開花するかというと、すべてのソメイヨシノが全く同じ遺伝子をもつクローンだからです。ソメイヨシノの苗木の生産は、接ぎ木で行っており、上記でご紹介したジンダイアケボノ等の品種も同様になります。一方桜でも自然に生えているようなヤマザクラやオオシマザクラは苗木を種から生産します。種から育てたサクラは親とは全く同じものにはならず、開花時期や花の大きさ等が微妙に異なる場合があります。人間の親子や兄弟が外見、体格、性格等が全く同じにならないのと同じですね。



種まきで生産するオオシマザクラ（白い花）は開花時期に個体差がある。左側手前の木は満開近いが、右側手前の木はまだ3分咲き程度。

3-2-2 ケヤキ通り

ケヤキは街路樹として、たいへん優れた点の多い木で、広い空間で自然樹形を基本として管理をすると四季折々美しい景観をつくり出します。しかしながら、自然樹形での管理等には以下のとおり大きな課題があります。

① 枯れ枝

- ・自然樹形の管理では枯れ枝が発生しやすい。
- ・細い枯れ枝でも、樹高が高く落下する距離が長いことから、事故につながりやすい。
→枯れ枝除去作業は、細い枝まで行わなければならない。

② 維持管理の労力とコスト

- ・ケヤキは枝が多く高所作業車の作業床が枝と枝の間に入りにくい。
→車両の位置をこまめに換えながら作業をしなければならない。
- ・1本1本に非常に時間がかかり、管理費の増加につながっている。
- ・樹高低減作業（詳細はP70）についても、定期的にせん定している街路樹とは比較にならないほど費用がかかる。

③ その他の課題

- ・最も根上がりが発生しやすい樹種の一つである。
- ・コンパクトな樹形にしようとすると手間もかかり、美しく管理するのは難しい。

松戸市内の街路樹では2番目に多く植えられている木で、かなりの本数があります。常盤平けやき通り等の街のシンボルとなっている通りは継続させる一方で、その他の通りについては、将来の維持管理費削減につなげるため、樹種の変更を検討します。



美しく雄大な樹形で大きな緑陰をつくる。機能的にも景観的にも街路樹として優秀であることは間違いない。



枯れ枝除去作業の状況。枝の間に作業床を伸ばし、車両の位置を変えながら、まんべんなく行うため、時間を要する作業である。



強風後（風速10m程度）にケヤキ通りのパトロールを実施。15分足らずでも落下した枝がこれだけ集められた。



ケヤキは地表近くに根が伸びやすく、根上りや縁石を動かす原因となる。

3-2-3 生育不良の樹種

①マテバシイ

市内の街路樹のマテバシイは、高低差の多い同一の通りの中では、低地部にあるものは生育が悪い場合が多く、景観上好ましくない状況が続いています。低湿地に強い樹種への変更を検討します。

②エンジュ

台風で倒木が多く、また幹が変形する病気（さび病）も多かったことから、新松戸や常盤平の通りについて既に樹種変更が行われています。1箇所残っている牧の原の通りについても、樹種変更を検討します。

③ハナミズキ

成長が遅くなかなか大きにならない、枯れる割合が高い等、街路樹としての課題は多いのですが、順調に生育した場合、春の花や紅葉等は美しく、また、大きくなりにくいことから維持管理コストの点も優れています。そのため、基本的にハナミズキ通りは継続として、枯れたところの植え替えの際には、新植した木が枯れずに良好な生育となるよう、土壌改良等の対策を行います。また、今後、強健で大きく育つようなハナミズキの品種がつくられた場合は、導入を検討します。



低地部のマテバシイ。この木は植栽後30年以上経過しているが、あまり大きく育っていない。



さび病により幹に異常があるエンジュ。生育不良となるほか、美観的にも劣る。



育ちの良いハナミズキ。樹高は7.5mで、街路樹としてはこれくらいの大きさには育ってほしいところ。

3-2-4 道路の規格に不適合な樹種

①幹の太い樹種

ソメイヨシノやユリノキ等のように、幹がどんどん太くなるような成長力が強い樹種のうち、歩道幅員が2.5m未満の狭い通りについては、樹種の変更を検討します。植え替えの際は、必要に応じて、歩道の有効幅員が少しでも大きくなるように、植樹マスの縮小化を図ります。

②ナンキンハゼ（トウダイグサ科）

二十世紀が丘の歩行者用の道路に植えられていますが、生育旺盛な本種には十分なスペースではありません。毎年せん定を行っても、あっという間に道路空間いっぱい大きさに戻ってしまう状況です。将来的な維持管理費削減のため、樹種変更を検討します。

③キョウチクトウ(キョウチクトウ科)

歩道の植樹帯に植えられているところがあります。ひこばえや低い枝が出やすいため、狭い歩道では歩行に支障が出やすいです。また、葉や枝等に毒性があるのも課題の一つです。さらに、樹高が高くならず木陰をつくる効果も低いことから、樹種変更を検討します。



幅員2mの歩道にソメイヨシノが植えられている。この写真の状況でも厳しいが、このままでは今後さらに厳しくなる。



幅員2.3mの歩道にユリノキが植えられている。この撮影時点では目通り80cm程度だが、将来は2倍以上になると考えられる。



ナンキンハゼはせん定してもすぐに枝を伸ばし、元の大きさに戻る。狭いスペースに収まるように維持管理するのは非常に手がかかる。



キョウチクトウは低い枝が伸びやすく狭い歩道では支障となりやすい

3-2-5 品種の変更により諸問題の解決が期待できる樹種

①トチノキ

伸び伸びと育てると個性的な美しい花が咲きますが、街路樹で通常行う定期的なせん定による管理では、ほとんど花は咲きません。また、木が小さいうちは花をつけない傾向があります。

一方、トチノキの品種の一つのベニバナトチノキは、トチノキと同様の雰囲気がありますが、トチノキより小ぶりで、木が小さいうちから花付きがよく、赤い花も見栄えがします。そのため、今後の植え替えでは、トチノキをベニバナトチノキに変更することを検討します。



ベニバナトチノキの開花状況（4月下旬）植栽後約15年

②ソメイヨシノ

ソメイヨシノについても、P48で記載のとおり、箇所によって品種の変更を検討します。

ちょっとブレイク③ 栃木県の「県の木」はわかりやすい

47ある都道府県にはそれぞれ「県の木」等がありますが、そのうちいくつご存じですか。東京都の「イチョウ」は比較的有名ですが、それ以外はあまり知られていないのではないのでしょうか。そんな中、栃木県の木は、ほぼそのまま県名の「トチノキ（栃の木）」なので、これが一番簡単に覚えられるかもしれません。その他では山形県の「サクランボ」や茨城県の「ウメ」（水戸市に梅で有名な偕楽園がある）あたりが、覚えやすいかもしれません。一方、千葉県の木「マキ（イヌマキ）」は知名度がちょっと低いかもしれませんので、ここでご紹介します。



千葉県庁前のイヌマキ

【イヌマキ（マキ科マキ属）】常緑針葉樹で大きいものは高さ20mになり、庭木に利用される南房総では生垣の利用が多いです。本市では戸定が丘歴史公園等に植えられています。



3-2-6 街路樹適正に疑問がある樹種

①ニセアカシア

「生態系被害防止外来種」に指定されており、その旺盛な成長力から取り扱いが難しく、強風で倒木しやすい弱点もあります。また、一般的にはトゲナシニセアカシアを植えることが多いのですが、トゲナシ種でも多少トゲが発生することもあり、低い枝が歩行空間に伸びた際に危険となります。そのため、将来的な安全や維持管理費への影響を考慮し、樹種変更を検討します。

②ユーカリ

令和7年12月現在、上矢切の国道6号の法面に植えられたものがあります。ここに植えられているユーカリはビミナリスという品種で、生育が旺盛であるため、せん定による維持管理にかなりの費用を要する他、風で枝が折れやすい等、多くの課題があります。現在あるものは維持管理を継続しつつ、枯死等があった際は、新しく植栽は行わない方向で検討します。



ニセアカシアは繁茂する性質が強く、歩行に支障を及ぼす枝が発生しやすい。枝にトゲがあることもあるため、早急に除去しなければならない。



ユーカリ（品種名ビミナリス）は、非常に大きく育つ。強せん定に耐え、小さくすることは可能だが、せん定後の回復力が強く、あっという間に大きくなる。コンパクトに維持管理することは費用面での負担が大きくなる。

3-2-7 その他

①アメリカフウ

葉の大きさ、形状が排水溝のグレーチング（排水溝等のふたで鉄の網のようなもの）に引っ掛かりやすく、道路冠水の原因となることがあります。現場の状況から樹種変更が必要な場合は検討します。

②イチヨウ

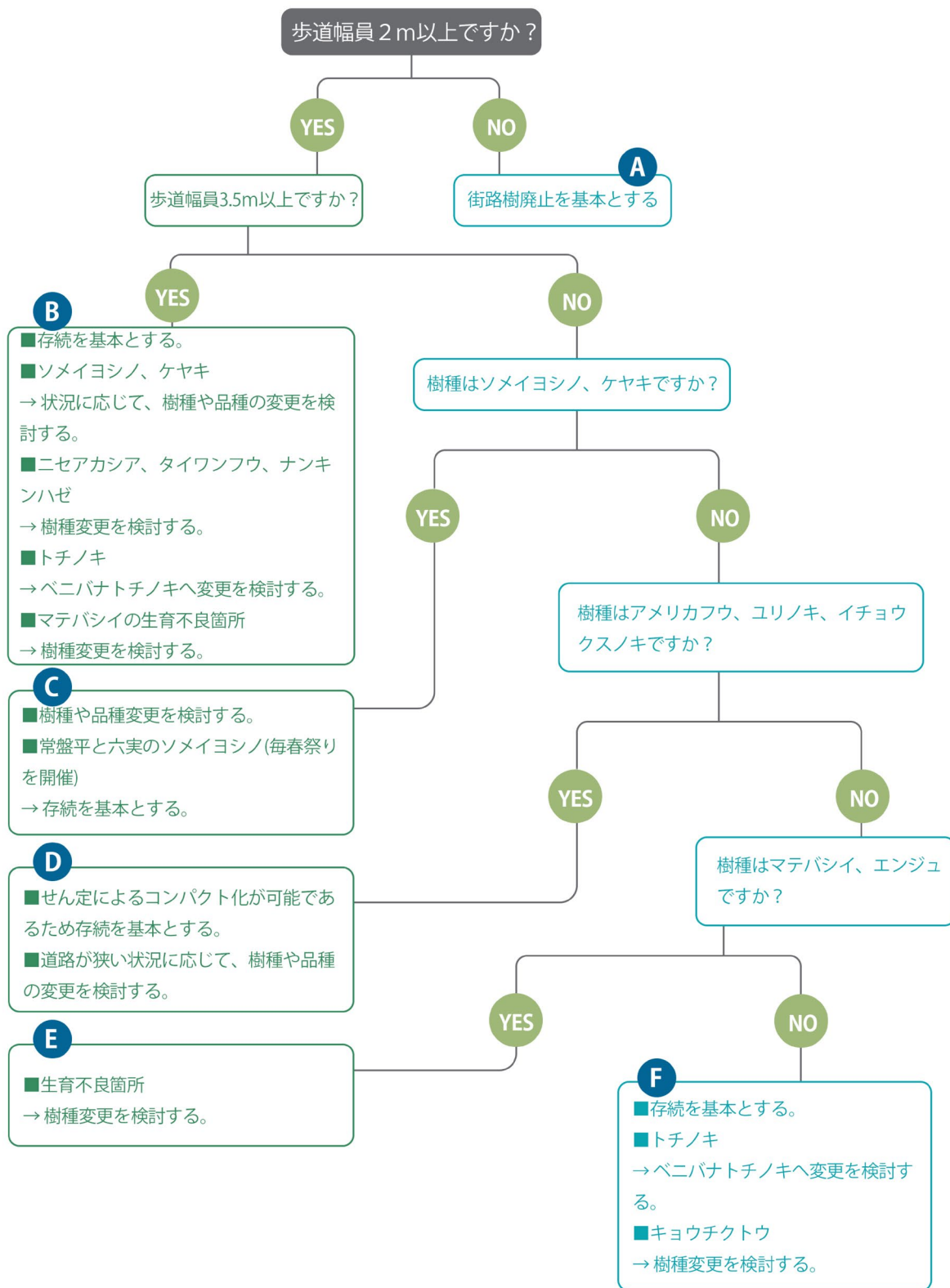
街路樹では実がならない雄の木がほとんどですが、まれに実がなる雌の木があります。その雌の木が実の多いタイプの場合、悪臭や道路の汚れの原因となることから、植え替えを検討します。

③ヤマモモ

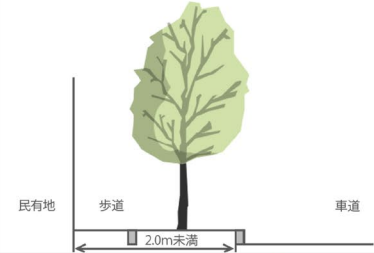
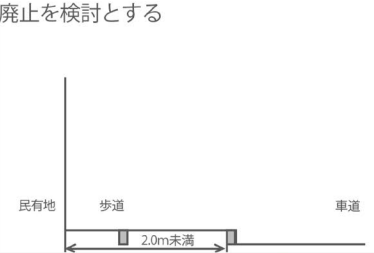
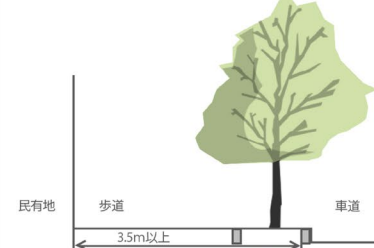
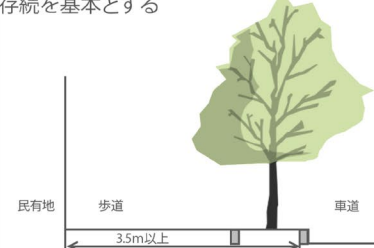
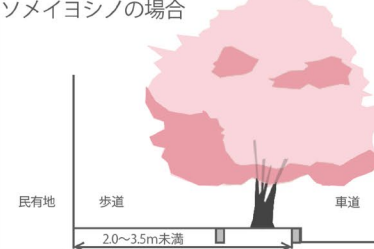
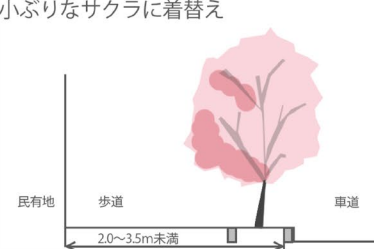
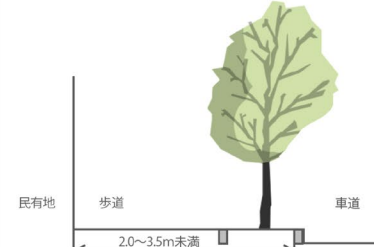
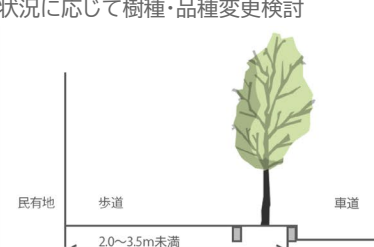
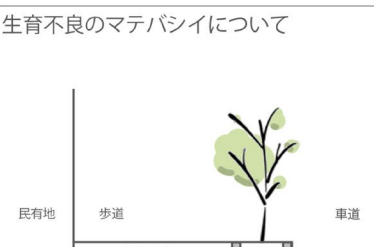
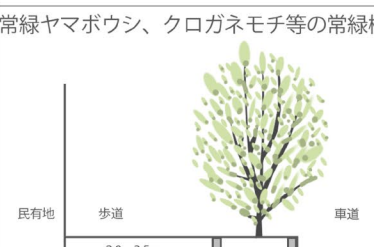
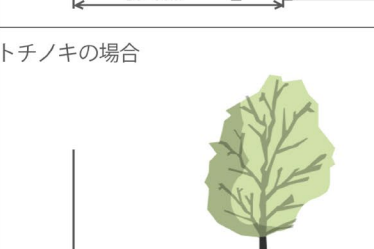

P31に記載のとおり、実がなることが特徴の木なのですが、その実で道路を汚してしまうことがある点がなんとも悩ましいところです。現状では雌の木のせん定の頻度を増やし、実がなりにくくなるような維持管理をしていますが、今後、費用面等において、そのような管理が難しくなる場合は、雄の木への植え替え等を検討します。

3-2-8 今後の街路樹整備のまとめ

ここまでの考察を踏まえ、道路幅員、樹種、植栽環境等の条件による今後の整備の基本方針について、以下のようにフローチャートと図にまとめました。



フロー結果イメージ図

	変更前	変更後
A		<p>廃止を検討とする</p> 
B		<p>存続を基本とする</p> 
C	<p>ソメイヨシノの場合</p> 	<p>小ぶりなサクラに着替え</p> 
D		<p>状況に応じて樹種・品種変更検討</p> 
B E	<p>生育不良のマテバシイについて</p> 	<p>常緑ヤマボウシ、クロガネモチ等の常緑樹を検討</p> 
F	<p>トチノキの場合</p> 	<p>ベニバナトチノキへ変更検討</p> 

フロー結果C(ケヤキの場合)の樹種変更イメージ画像



歩道幅員が狭いため強いせん定を行っているケヤキ通りをサルスベリに樹種変更したイメージ画像

3-2-9 隣接地に樹林地等がある場合

街路樹がある歩道の隣接地に公園や緑地などの樹林地等がある場合、その隣接地の木と競合して街路樹の生育に支障が出る場合があります。そのような街路樹が枯れてしまった際の植え替えについては、現場の状況を勘案して、以下のとおり同じ樹種での植え替え以外にも検討します。

- ① 隣接地が街路樹から見て北側にある等で、街路樹への日照が確保できる場合は、通常の植え替えを行う。ただし、この通りの樹種がケヤキやソメイヨシノの場合は、隣接地の木との競合を考慮して、樹種や品種を変更することも検討する。
- ② その場所の日当たりが非常に悪い場合は、同じ樹種を植えても生育が悪い可能性が高く、また隣接地の木が緑陰を形成する等、街路樹の役割を果たしている場合が多いため、高木の植樹は行わない方向で検討する。ただし、将来的には隣接地の木の状況が変化し、街路樹の場所の日当たりが良くなる可能性がある。その際に再び高木を植えることができるよう、植樹マスは残しておき、当面植樹マスには日影に強い低木等を植栽することにより美観維持に努める。



街路樹がある歩道の隣接地に樹林地がある例

3-2-10 根上り対策

植え替えの際には、根上り対策として、植樹マスの心ちに沿って深さ50cm程度まで防根シートを設置するものとします（図3-1）。なお、ハナミズキ等のように根の成長力が弱く、根上りの心配が少ないものについては、防根シートの必要性は低いと考えます。また、シートを張る深さや設置する位置についても、樹種や現場の状況に応じて調整するものとします。

なお、街路樹の植栽基盤整備の先進例を図3-2に記します。道路の新設の際にはこの手法についても検討します。

後の維持管理の部分（P74）でも記載しますが、街路樹が太くなり、幹が植樹マスいっぱい広がっているような場合は、根上り対策の舗装の修繕を実施しても、短い期間で再び根上りを起こす可能性が高いため、伐採を検討します。

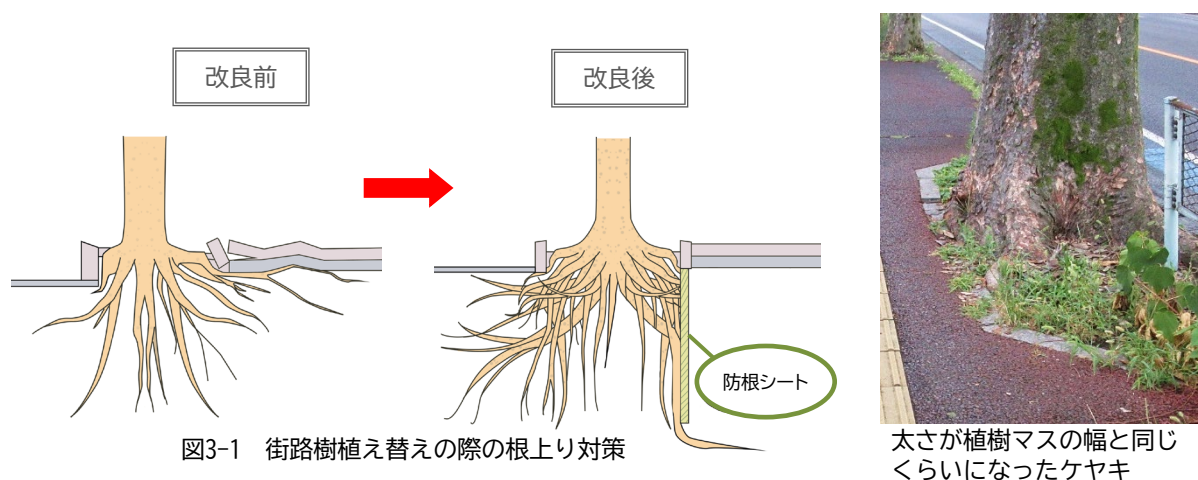


図3-1 街路樹植え替えの際の根上り対策

太さが植樹マスの幅と同じくらいになったケヤキ

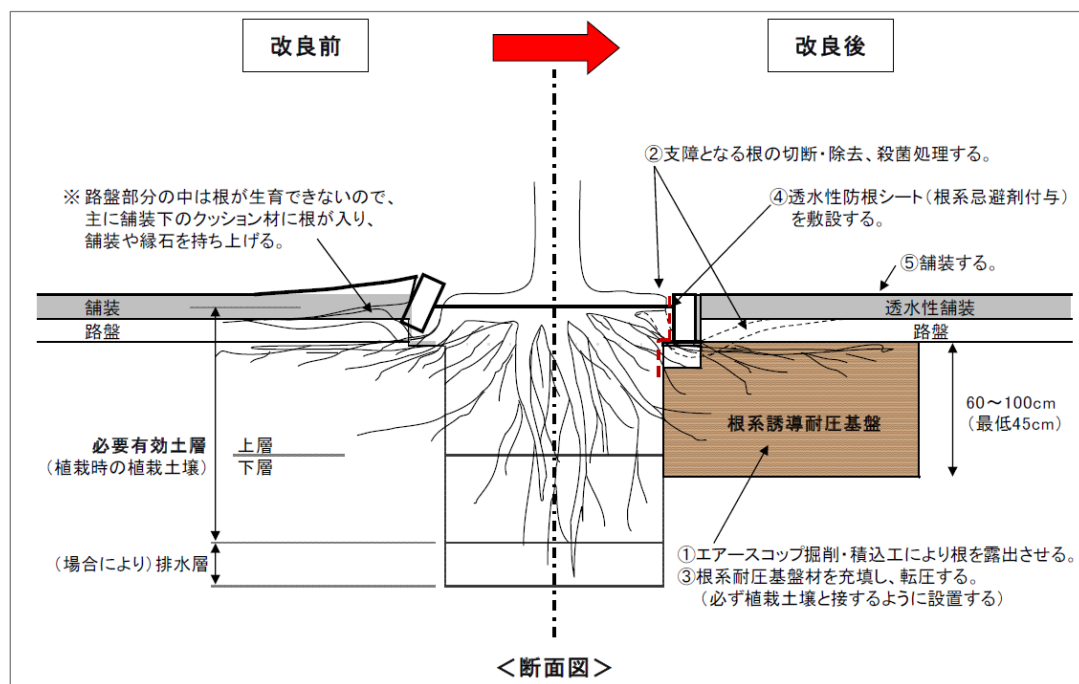


図3-2 根上り対策の先進例（出典：横浜市 街路樹根上がり対策工特記仕様書）

※根系誘導耐圧基盤…歩道路床部分に直径30～40mmの単粒度骨材をかみ合わせます。これにより耐圧構造を形成すると同時に、かみ合わせ部分の空隙に街路樹の生育基盤となる土壌材を充填し、通気性の確保、養分・水分の供給を図り、根系を誘導する工法です。

※防根シート…根の進入を防ぐ材料で、板状のような物理的に根の進入を防ぐ材料と、不織布に根系忌避剤を付与して根の進入を化学的に防ぐ材料等があります。

3-3 低木の整備について

街路樹は落葉樹が多いため、根元の低木は冬季の貴重な緑となっています。また、植樹帯となっている場合は、飛び出し防止の役割を果たしているため、現存のものは、基本的に継続して管理するものとします。しかしながら、以下に該当するものについては、樹種変更等を検討します。

3-3-1 ツツジ類の育ちが悪い場合

現在の道路舗装は一般的には再生砕石（解体等で発生したコンクリートを砕いたもの）を使用しています。コンクリートはアルカリ性であるため、再生砕石が近くにある植樹マス内の土壌がアルカリ性寄りになることがあります。pH8程度の弱アルカリ性の場合、多くの植物にはそれほど支障がありませんが、ツツジ類は酸性土壌を好むため、弱アルカリ性土壌でも生育に支障が出る場合があります。実際に市内では、本来は生育旺盛であるオオムラサキツツジの生育が悪いところがあります。再生砕石が近くにあり、今後もアルカリ性化が進む可能性もあるため、土壌改良による酸性化を図るより、アルカリ性土壌に耐える樹種に変更することが現実的と考えます。



育ちの悪いオオムラサキツツジ。
同じ土壌に植えたハナミズキは普通に生育していることから、土壌酸度がツツジ類には合わない弱アルカリ性であるためと考えられる。



アルカリ性土壌に比較的強いシャリンバイ（バラ科）
樹種変更の候補の一つ。

ちょっとブレイク⑭ 東洋のバラとは？

土壌酸度の影響が大きい植物として有名なのがアジサイです。花の色が酸性土壌では青くなり、アルカリ性土壌ではピンクや赤になるのです。アジサイが江戸時代に日本からヨーロッパに渡ったときに「東洋のバラ」と呼ばれ大人気となったそうですが、アジサイとバラは似ていないのになぜ「バラ」だったのでしょか。おそらく、日本は一般的に弱酸性土壌が多くアジサイが青くなりやすいのに対して、アルカリ性土壌が多いヨーロッパではアジサイがピンクや赤になったために、赤系統の色が主流のバラに例えられたのではないのでしょうか。



同じ品種のアジサイも土壌の酸度によって色が変わる（左が酸性、右がアルカリ性）



3-3-2 植樹帯の有効幅員が狭い場合

歩道幅員は「松戸市道の構造の技術的基準を定める条例」により、2m以上と定められています。街路樹のすぐ横では、有効幅員が2mに満たないところもありますが、単独マスであれば、幅員2m以上のところがあるため、車いすやベビーカー等のすれ違いは可能となります。

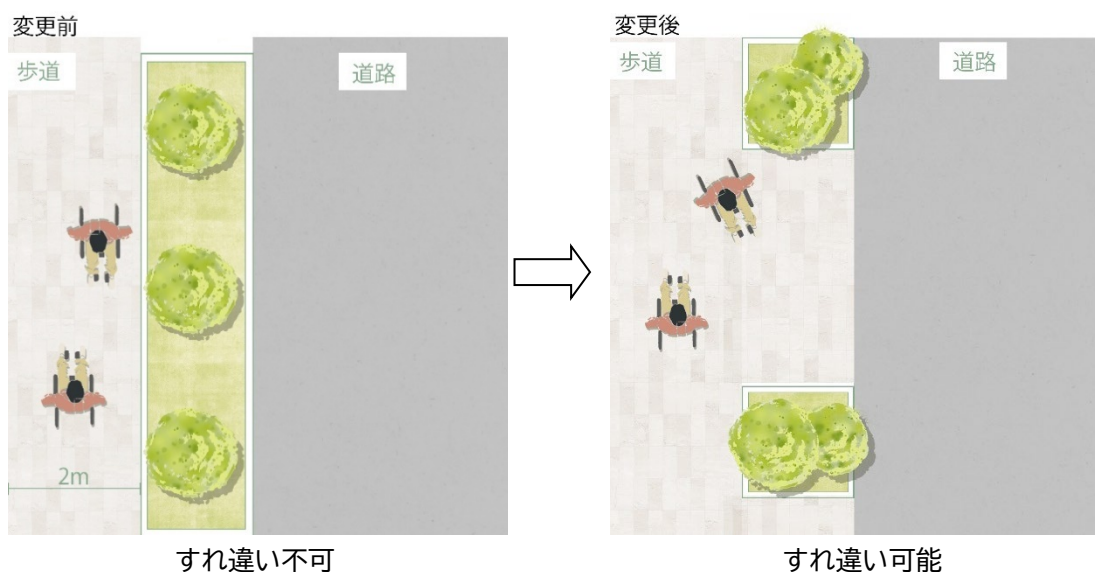
しかしながら、低木が帯状に植えられていて、かつ有効幅員が2m未満の場合、長い区間すれ違いができなくなってしまい、車いす利用者等は、対向者の有無を確認して、その歩道を進むこととなります。

このような箇所については、植樹帯を単独マス化する、あるいは、途中にすれ違いができるスペースを設ける等の改良を検討します。



人1人が歩ける程度の幅（有効幅員約1.5mが続いている）

〈すれ違いスペース設置のイメージ〉



3-4 樹種変更に採用する候補樹

現在の樹種から変更する際には、松戸市で実績のある樹種のほか、市外で植えられて、街路樹適正が高いと考えられるものも含め、検討します。

以下に、市内では街路樹として未使用のものを中心に、今後の変更樹種として有望なものを紹介합니다。これらの樹種に限らず、今後もあらゆる樹種の街路樹適正について研究します。また、大きく育ちすぎる傾向のある樹種について、大きくなりにくい品種が開発される例もあることから、今後も新しい樹種・品種の情報収集に努めることとします。

①ヤマボウシ（ミズキ科ミズキ属）

ハナミズキの別名がアメリカヤマボウシであるようにハナミズキに似ている樹種です。街路樹としての利用はハナミズキよりは少ないですが、全国本数ランキングは22位（2022年）で上昇傾向となっています。ハナミズキに似た花が5月中旬頃から咲き、ハナミズキより開花期間が長いのが特徴です。ヤマボウシは日本在来種であり、基本的にはハナミズキより大きくなり、樹勢も強いと考えられます。街路樹では、紅葉は鮮やかな色にはならない印象です。



公園内のヤマボウシ。健全に生育すると見事な花を咲かせる。



ヤマボウシの花。順調に育てば、美しい花を咲かせる。

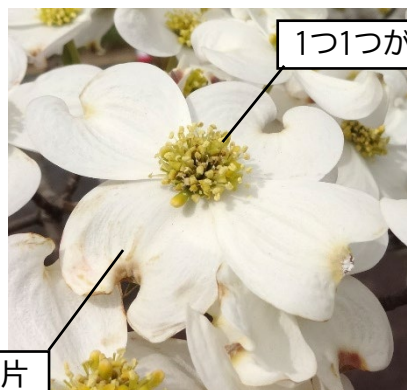


都内での街路樹としての使用例。ハナミズキより大きく育つ可能性がある。



ちょっとブレイク⑮ ハナミズキの花は花ではない？

ハナミズキの花びらに見えるのは花びらではなく、植物学的には総苞片（そうほうべん）と呼ばれる葉に近いもので、中心部のつぼ状の部分が花です。ヤマボウシの花も同様のつくりです。ここまで、ハナミズキやヤマボウシについて「花がきれい」と紹介してきましたが、正確には「総苞片がきれい」なのでしょうね。でもわかりにくいので、やっぱり「花がきれい」にしておきます。



1つ1つが花

総苞片

②常緑ヤマボウシ（ミズキ科ミズキ属）

常緑のヤマボウシで中国南部原産です。花の特徴等、ヤマボウシと似ているところもありますが、樹形等、木の雰囲気はかなり違います。「常緑ヤマボウシ ホンコンエンシス」と呼ばれる基本種のほか、花付きの多い品種も作られており、中でも「月光」という品種は樹冠一面に花をつけるため庭木等で人気です。近年、都内で本種の街路樹での使用が増えており、まだ歴史は浅いですが、生育は順調で、厳しい環境には耐えられそうです。成長は遅めで、大きな木陰ができるのには時間がかかる可能性があります。



常緑ヤマボウシ「月光」。花の数が非常に多く見ごたえがある。写真の木で樹高は約6m。成長は遅めである。



常緑ヤマボウシ「月光」の花。基本種であるホンコンエンシスはこれほど花を付けず、個体によって花の数にもばらつきがある。

③サルスベリの直幹型の品種（ミソハギ科サルスベリ属）

市内の二十世紀が丘に街路樹として植えられている古くからある品種は、幹は曲がりながら成長し、樹高も低めですが、近年、サルスベリは幹が真っすぐ伸びる品種が増え、街路樹での利用が増えています。常盤平のエンジュの植え替えで使用した濃い紅色の品種のカントリーレッド、タスカローラのほか、淡い紅色のマスコギーや、白色のナチエ等はサルスベリとしては樹高が高く、街路樹に向いています。市外の事例では、3色混合の植え方をしているところもあり、真夏にカラフルな景観をつくっています。これらの品種も、ひこばえが発生しやすいというサルスベリの特徴は、受け継いでおり、大木にならず、せん定の費用は抑えられる反面、ある程度のひこばえ除去作業は必要となります。



直幹型のサルスベリの並木
(横浜市)



タスカローラ



マスコギー



ナチエ

④クログネモチ（モチノキ科モチノキ属）

常緑樹で秋から冬に赤い実をつけるのが特徴です。同じ常緑樹のクスノキほどは大きくなりませんが、せんで比較的コンパクトな樹形をつくれるため、街路樹としても利用が増えています。クログネモチを「苦労がねえ金持ち」と言い換えて、縁起木とすることもできるようです。クスノキと比べれば小さいのかもしれませんが、公園等ではクログネモチの大木を見かけることもあり、年数が経つとかなり大きくなる木です。



クログネモチの街路樹（都内）。丁寧に管理すれば、統一感のある並木となる。



クログネモチの実。冬季の街の彩りの一役を担っている。

⑤マグノリア ワダスメモリー（モクレン科モクレン属）

P35で紹介したコブシとその近縁種のタムシバを交配させてつくられた品種です。花が大きくて多いコブシといったイメージで、コブシより木が大きくなることから、手がかからない美しい街路樹として有望な品種と思われます。今のところ街路樹としての使用例が少ないため、道路環境に耐えられるかを見極める必要があります。



昭島市の使用例



マグノリア ワダスメモリーの花

⑥その他

- ・サクラ類（バラ科サクラ属）についてはP48参照
- ・ベニバナトチノキ（ムクロジ科トチノキ属）についてはP53参照

3-5 整備の実施に向けて

3-5-1 樹種変更の優先順位

樹種・品種の変更を行う場合にまず考えることは、どの通り、どの樹種から取り組むかといった、優先順位についてです。安全性、維持管理費の低減化、景観向上、緑陰形成等、順位を検討するための要素は様々です。

本市では令和4年策定の「松戸市総合計画」の目標の一つに「桜並木の再生」を掲げていることから、最初にサクラの街路樹の整備に取り組みます。具体的には、再生のために新しく植える品種を決定するため、P48の検討内容に基づいて品種の変更に取り組んでまいります。ソメイヨシノから小ぶりのサクラへ植え替えることにより、維持管理費の低減を図るほか、ソメイヨシノの老木が新しい木になることによる安全性や景観の向上を図ることができます。

サクラに続いて、特に安全性、維持管理費の低減を重要視した上で、ケヤキ等について変更する箇所を選定してまいります。

その後については、美観の向上等につながる樹種変更についても取り組んでまいります。

3-5-2 樹種変更に伴う合意形成

樹種の変更等を検討するにあたり、地元の皆様がその街路樹についてどのような考え方をお持ちなのかは、大変重要な要素になります。特に大きく成長し見栄えのする街路樹を安全性や経済性を理由に変更しようとする場合、「立派な街路樹」に愛着のある方から、「変更しないでほしい」といった意見が出るのが考えられます。また、新しい樹種についても、「地元のみならず考えたい」といった意見が出ることも考えられます。そのため、樹種変更することや、変更する樹種について、地元の皆様と対話を重ねることが重要となります。合意形成手法の例は以下のとおりです。

① 検討会や委員会等への地域住民等代表の参加

行政や学識者等、さまざまな関係者で構成される検討会等に、地域住民が参加するものです。参加者は、地域の代表として地域の現状や課題の報告を行うほか、今後の取り組みについてほかの委員と協議し、時間をかけながらよりよい方向を探っていきます。

具体例：委員会、検討会、ワークショップ、ワールドカフェ等

② アンケート等の実施による意見収集

周辺住民に対してアンケートを配布したり、ホームページでのパブリックコメントを行います。匿名性が高いため、気兼ねなく意見等を述べるができる一方、アンケートの回答数やコメント数が少ない場合、市民の意見を十分に集めることは難しいといえます。

具体例：アンケート、パブリックコメント等

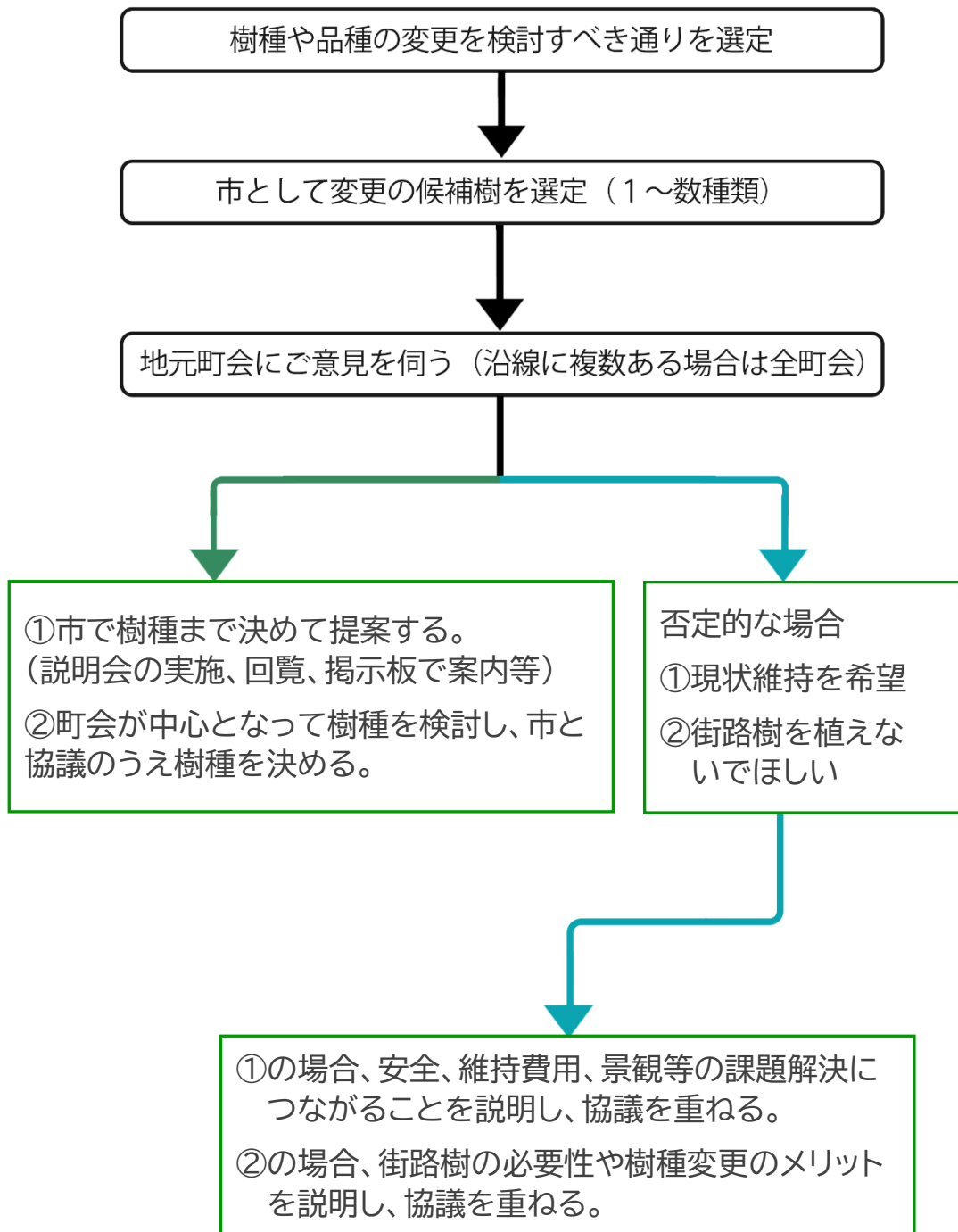
③ 説明会の実施

事業を開始する前に、対象地区の住民の理解を得るために説明を行います。説明会の実施のほか、近隣住戸へ資料を配布することがあります。

説明会に参加できなかった人への対応として、別日に資料配布やホームページで報告を行うことがあります。

具体例：住民説明会、工事説明会、近隣住戸への資料配布

松戸市は、造園職の職員がいる（令和7年度時点）ことや、これまでの維持管理により蓄積されたノウハウがあることから、基本的に樹種変更は市からの提案型としたいと考えています。もちろん、市で一方向的に決めるのではなく、それぞれの地元の住民との意見交換を重ね、より皆様に愛される街路樹となるよう検討を進めてまいります。想定している流れは以下のとおりです。



3-6 維持管理の考え方

3-6-1 街路樹のせん定について

街路樹のせん定作業は、これまで以下のとおり実施してきました。本作業内容で街路樹の機能
をある程度果たしてきたと考えられるので、引き続きこの内容を基本にせん定作業を行います。

(1) 街路樹管理の基本方針

- ① 円滑な道路交通および日常生活行動を確保する。
- ② 安全性（事故防止、防犯）に充分配慮する。
- ③ 街路樹としての健全な育成に努める。
- ④ 街路樹の樹種ごとの自然的樹形を尊重する。
- ⑤ 路上施設等との美的調和を図る。

(2) 街路樹の基本せん定

図3-3に示す17種の不要枝をせん定する。

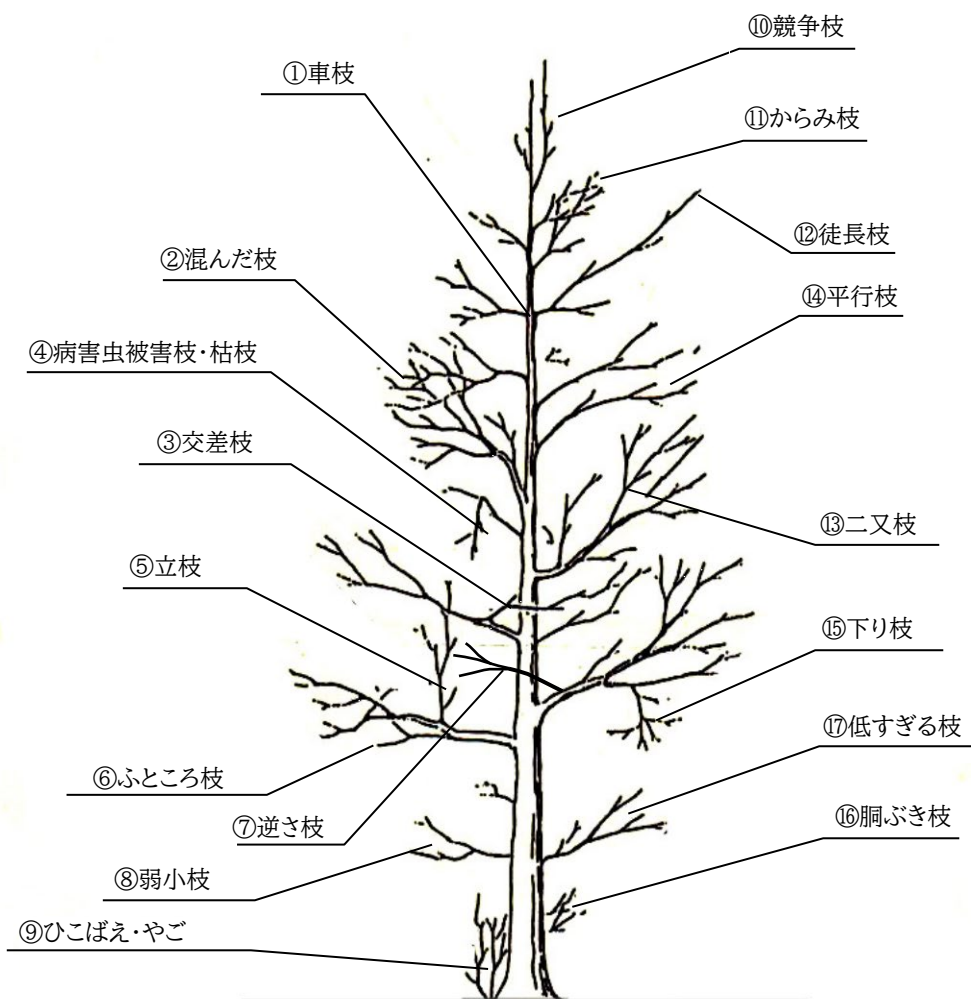


図3-3 街路樹の基本せん定






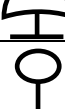

(基本的にせん定する枝)

- ① 車枝…樹幹の同じ位置から車輪状に出た枝。樹種によってはせん定の対象とならない。
- ② 混んだ枝…特定の部分で混み合っている枝。
- ③ 交差枝…他の枝と交差している枝。
- ④ 病害虫被害枝…病害虫により回復が見込めない枝、放置すると被害が拡大する枝、枯れた枝。
- ⑤ 立枝…枝の一部から直立した枝。
- ⑥ ふところ枝…樹枝の内部にある細い枝。状況によってはこの枝を活用する場合もある。
- ⑦ 逆さ枝…枝は内部に向かって伸びる枝（通常外部に向かって伸びる）。
- ⑧ 弱小枝…それ以上生長の見込みもなく、あってもなくてもよい枝。
- ⑨ ひこばえ・やご…樹木の地際から萌芽した枝
- ⑩ 競争枝…主幹の先端で1つの枝と対抗するように伸びている枝。
- ⑪ からみ枝…他の主な枝にからみついたような枝。
- ⑫ 徒長枝…当年枝のうち他と比較して特に伸びた枝。状況によってはこの枝を活用する場合もある。
- ⑬ 二叉枝…同じ太さで2つに分かれている枝。
- ⑭ 平行枝…1つの枝に対し同じ方向に平行に伸びた枝。
- ⑮ 下り枝…下向きに伸びた枝。
- ⑯ 胴ぶき枝…主幹から萌芽した枝。
- ⑰ 低すぎる枝…通行に障害となる低い位置に生えた枝。

(3)街路樹の基本樹形

表3-2に示す基本樹形に、植栽環境、樹種を勘案しながら整枝する。

表3-2 樹種と基本樹形

名 称	基本樹形	適用樹種
卵 形		アオギリ、アメリカスズカケノキ、イスノキ、イヌマキ、クロガネモチ、コブシ、シナサワグルミ、タイサンボク、トウカエデ、ヒメユズリハ、カロライナポプラ、タイワンフウ、ボダイジュ、アメリカフウ、ユリノキ、カツラ等
円錐形		イイギリ、イチヨウ、ゲッケイジュ、スギ、ヒノキ、メタセコイア等
円柱形		イタリアポプラ、カイツカイブキ、サンゴジュ 等
球 形		アラカシ、エンジュ、クスノキ、シマトネリコ、タブノキ、ナンキンハゼ、ニセアカシア、ネムノキ、フサアカシア、マテバシイ、ヤマモモ 等
盃 形		オオシマザクラ、ケヤキ、シマサルスベリ、センダン、チャンチン、ニワウルシ、ヤマザクラ 等
枝垂形		シダレヤナギ 等
半球形		カクレミノ、カンヒザクラ、ソメイヨシノ、ハゼノキ 等
小球形		オキナヤシ、カナリーヤシ、トウジュロ 等

(4)街路樹のせん定時期

表3-3に示す時期に、樹種、生長度合を勘案しながら実施する。

表3-3 街路樹のせん定時期

時期 \ 年	毎年せん定	毎年または隔年せん定	3～4年ごとのせん定	その他・適宜せん定
冬期せん定	プラタナス ナンキンハゼ	アメリカフウ エンジュ サルスベリ 台湾フウ トウカエデ ニセアカシア ナシ ユリノキ ユーカリ カツラ	イチヨウ コブシ トチノキ	アンズ オオシマザクラ ケヤキ サトザクラ ソメイヨシノ ハナミズキ
夏期せん定	キョウチクトウ	クスノキ マテバシイ	カイヅカイブキ キンモクセイ ヤマモモ	

(5)通行障害となる枝葉のせん定

道路交通法及び道路法の規定により、通行障害となる低い位置に生えた枝は、図3-4に示すようにせん定する。

しかし、樹木本来の樹形を維持するために、その樹が植えられている道路への大型車両等の通行規制の有無や、樹種の特長等を勘案しながらせん定を実施する。

また、街路樹が幼木で、下枝を取り除くと樹形が悪くなる場合は、ある程度の量の枝を残しつつ、将来の樹形を考慮してせん定を行う。

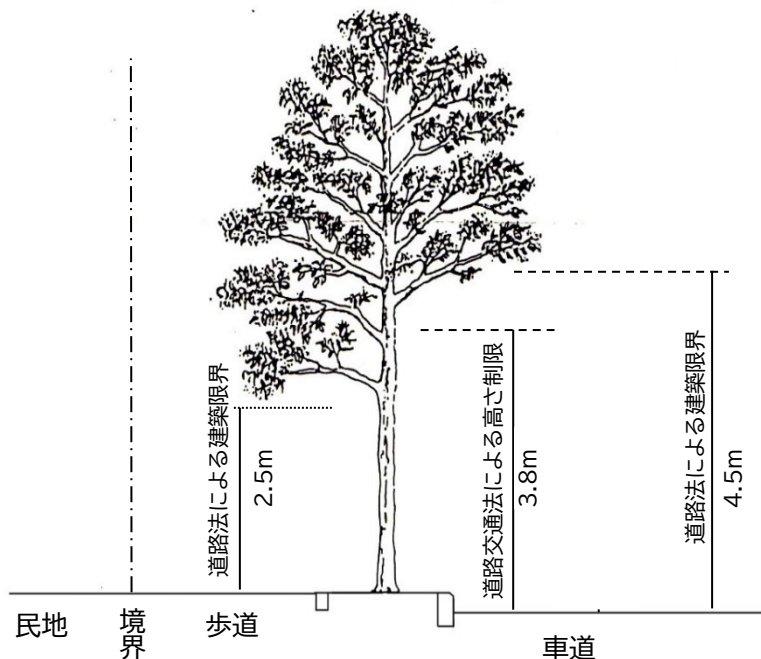


図3-4 通行障害となる枝葉のせん定

(6)樹高について

樹木の高さについては、自然生長仕立て方式を目指す、道路上の架空線との競合等も考慮し、樹種によっては表3-4に示す樹高でおさえる。

表3-4 樹高について

次の樹木については樹高を地上10m程度でおさえるものとする。
アメリカフウ、イチヨウ、エンジュ、コブシ、台湾フウ、トウカエデ、トチノキ、ニセアカシア、ハナミズキ、プラタナス、ユリノキ、クスノキ、マテバシイ、ヤマモモ、ユーカリ、カツラ

(7)その他

- ① 毎年同じ箇所でのせん定により、コブが発生し景観を損ねている場合は「切り戻しせん定」によりコブを切り落とす。
- ② 道路標識、信号機、道路照明等の遮蔽になる場合は、樹形に留意しながらせん定を行う。
- ③ 民家と接触している枝は、余裕を保持してせん定する。
- ④ 病原菌等が切り口から侵入しやすい樹木については、防腐処理を行う。

3-6-2 樹高低減作業について

① 作業の効果

ケヤキやソメイヨシノのように、木の良さを生かすため、自然樹形での管理を基本としている樹種は、年月を経ると大木化し、枯れ枝の落下、管理費の増大、点検が困難になる等の課題が生じます（P41参照）。

この状況を解消するための「樹高低減」という手法があります。この手法では、概ね2/3程度に樹高を下げます。これにより、多くの古い枝がなくなるため、枯れ枝の発生は大幅に減少し、木がコンパクトになるため、点検しやすくなり、維持管理費の削減にもつながります。

この作業により、景観的にはこれまでの見栄えのする状況ではなくなり、特に樹高低減作業の翌年は、樹形の悪化が顕著となりますが、この状況は数年で徐々に解消します。ソメイヨシノは、樹高が高くなると、地面にいる人から遠いところで花が咲いている印象となりますが、樹高低減作業後に伸びた枝に花がつくようになると、以前より花がずっと近くなった印象となります。



ケヤキの樹高低減作業。左から樹高低減作業前、作業後、作業直後の春の状況。樹高はかなり下がったが、それでもかなり高い。作業直後に伸びる枝は垂れ下がりやすい。



ソメイヨシノの樹高低減作業。左から樹高低減作業前、作業後、作業約8年後の開花の状況。樹高が高いときは遠かった花が近づいた印象がある。

② 作業における課題

この作業では10mを超える高所で実施する機会が多く、大がかりな作業となります。また、かなり太い部分で枝を切ることになるため、処分する枝も大量になり多くの費用を要します。

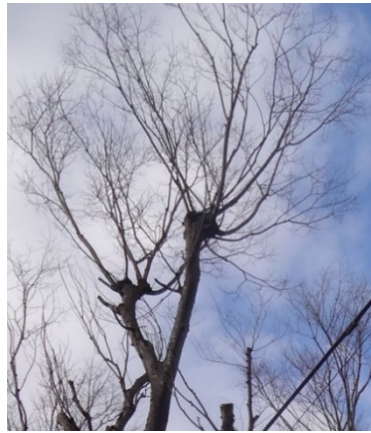
また、本作業後には大きな切り口が生じるため、特にソメイヨシノでは切り口からの腐朽対策として殺菌剤による防腐処理を行い、その後の経過観察も必要となります。

さらに、大きな切り口からは、多数の枝が伸びますが、それらが成長してくると、枝が込み合っており、その中で生育の悪いものは、数年で枯れ枝となってしまいます。

これらの枯れ枝は、多くは細いものですが、樹高低減を行ったとはいえ、樹高がそれなりに高いため、事故につながる可能性もあります。樹高低減の作業を実施した後は、経過観察を行い、切り口から多く伸びた枝を整理する作業の実施を検討します。



樹高低減実施1年後。春には垂れ下がっていた枝は上向きになりケヤキらしい姿になってきた。



樹高低減の切り口から伸びた枝。今後整理していかないと込み合ってきてしまう。



大きな切り口から腐朽しているソメイヨシノ。腐朽が進むと、別の枝が枯れ、落下につながる。

③ 他自治体のケヤキの管理方法の例

東京都杉並区の中杉通りでは、上記の「樹高低減作業」と似ていますが、追加の作業を計画的に行う等、より進んだ維持管理を実施しています。費用面等、課題も多いと思われませんが、本市のケヤキの維持管理の参考にしてまいります。

中杉通りのケヤキ並木は、戦後、住民の発議によって整備されたが、大径木化し、幹の腐朽による倒伏や沿道建物との競合などが問題化した。東京都は、地元連絡会と連携して2009年度より現況把握及び方針検討に着手し、2011年度から既存樹の「間伐」、「基盤改良」と同時に「樹形再生」を開始した。3年後の2014年度には、主枝を含む樹形の骨格的な整枝を行い、4年後の2018年度に樹形の回復状況を確認して管理内容を見直し、その管理を翌年に施工するといった流れで、ケヤキ並木全体の再生を順次進めている。現在は、広い空間に一段低くなった扇型の樹形が広い影を落としている。

写真：M.HASHIMOTO

2010.8月
間隔が狭く樹冠の上があった「当初の様子」

2012.5月
樹形再生剪定から二年目の様子

2020.9月
8年目の樹冠が低くなった様子

2012.2月
樹形再生剪定直後の様子

2013.12月
剪定一年目の萌芽の様子

2015.7月
2014年度から基本剪定に戻す

2019.11月
樹形再生剪定7年半後には扇形の低い樹冠に再生

ケヤキ並木樹形再生の事例：東京都杉並区中杉通り（出典：街路樹剪定ハンドブックP52）

3-6-3 植栽後初期の維持管理について

街路樹を植え替え等で植栽した場合、はじめの数年は木が小さいため、しばらくは何もせず自然に伸ばしていることが多いのが現状です。

しかしながら、この方法では将来的に不要になる枝を成長させてしまい、太くなってから切ることになり大きな切り口をつくってしまいます。そのため、植栽後の初期の段階で、木の成長に合わせて将来的に不要となる枝の除去を行うこととします。特に車道側、歩行者側の低い枝については、将来的に必ず切らなくてはならなくなるため、木の生育に支障がある場合を除いて、積極的にせん定を行うものとします。

また、植栽初期の段階で台風等の影響でわずかに傾くことがありますが、そのままにしておくと、将来木が太く成長した場合に、幹が道路上にはみ出してしまう可能性があるため、必ず植え直すものとします。

次に、植栽時に設置した支柱については、長期間放置すると、支柱が幹に食い込む等の支障がでる場合があるため、植栽後3年を目安に撤去を行います。また、初期成育が非常に早い等の場合は、状況に応じて3年を待たずに、随時支柱の撤去や結束し直し等の対応をします。

なお、木の初期生育が良くない場合等、3年以降も支柱が必要と考えられる際は、支柱の再設置等の対応をします。

このように、植栽直後の街路樹についても、観察を怠らず、1本1本に合わせた必要な対応を実施します。

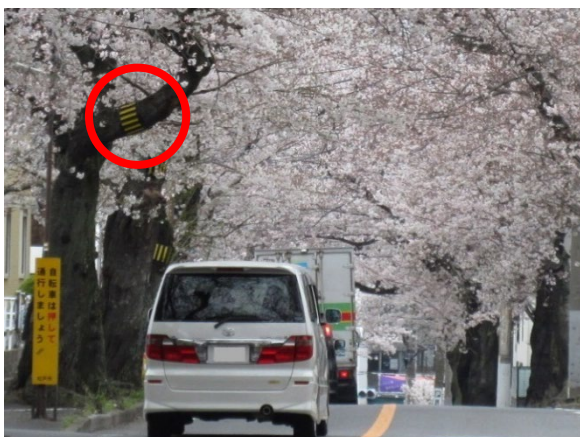


このような枝は早期にせん定を行う。

支柱は3年を目安に撤去する。



この写真ではガードパイプだが、支柱を放置した場合、同様に食い込んでしまうことがある。



車道側の低い枝を切らないうちに太くなり、主要な枝となってしまったため、反射板にて注意を促している例。植栽初期に切っておくことが重要となる。



過去に何かしらの原因で傾き、そのまま太くなったため、幹ごと車道にはみ出してしまっている例。細いうちの傾きを見逃さないようにしなければならない。

3-6-4 猛暑に対応した道路の緑陰づくりの推進

今後の街路樹整備の中では、ケヤキやソメイヨシノから樹種を変更する箇所があることが想定されます。これらはこれまで大きな緑陰をつくってきたので、新たに植える樹種についても、ケヤキやソメイヨシノと同等ではなくとも、できるだけ大きな緑陰をつくりたいところです。

そこで、植栽後の樹形の作り方を工夫し、楕円型の樹冠をつくり、少しでも緑陰が大きくなるような管理方法を検討してまいります。

歩道の日陰となる部分の割合が増えることによって、猛暑の際の歩行のつらさを和らげることが期待されます。

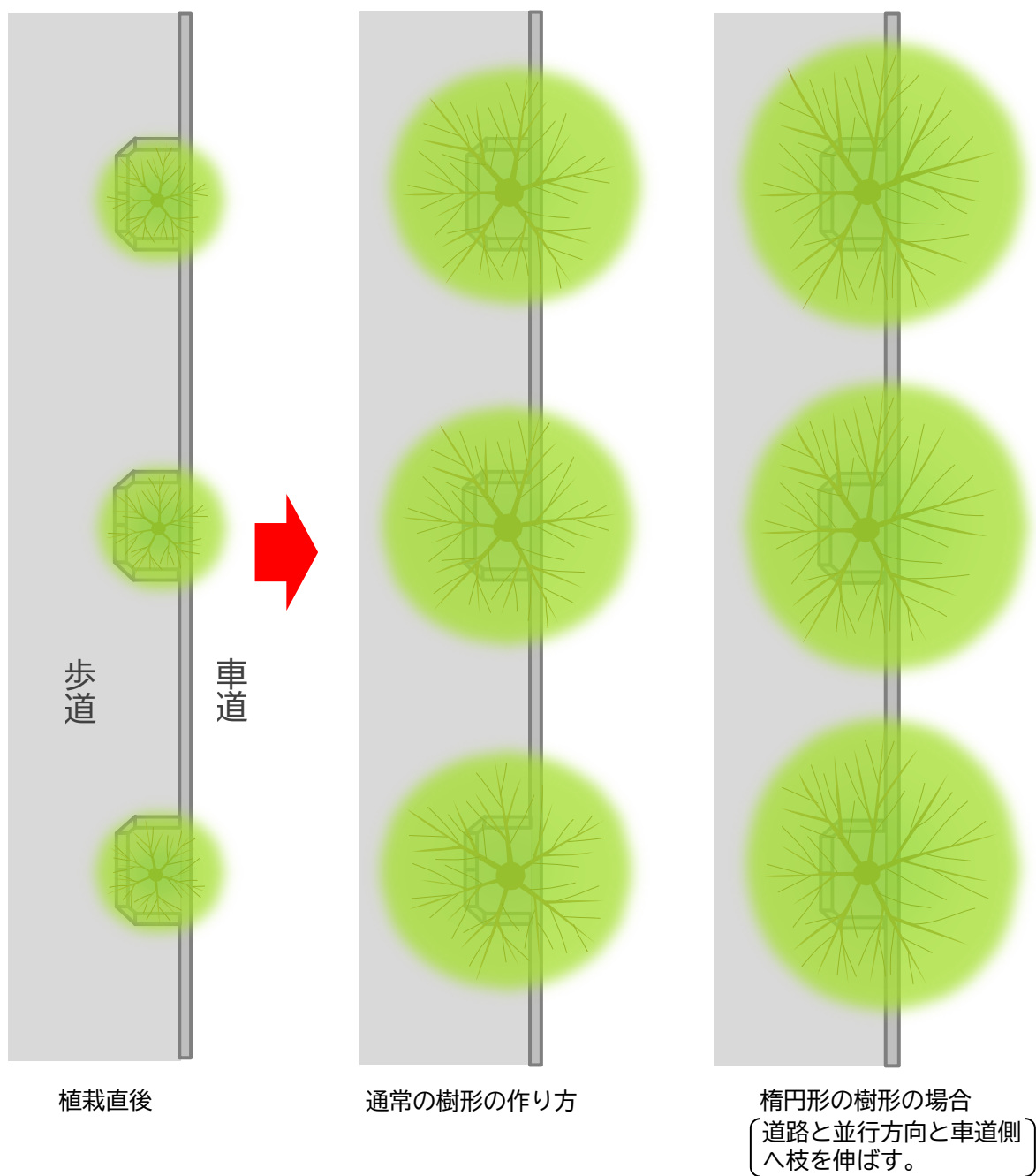


図3-5 緑陰を増やす樹形づくりのイメージ

3-6-5 安全管理（樹木診断、枯れ枝点検等）

ソメイヨシノやケヤキ等の、倒木すると大きな被害をもたらす可能性がある樹種については、樹木医による診断を1～2年に1回程度実施するものとします。

ソメイヨシノ等のサクラ類やケヤキは、主に自然樹形管理としていることから、枯れ枝が発生しやすく、少なくとも年に1回の枯れ枝の点検を実施することとします。その際に、主にソメイヨシノでは、低く下がっている枝についても点検を行います。

定期的にせん定を行っている樹種については、せん定作業を行う事業者により、せん定作業の際に大きく揺れる等の異常がないかについて確認を行うものとします。



樹木診断



枯れ枝

ケヤキの枯れ枝点検

※あらゆる方向から点検しないとすべては見つからない

3-6-6 伐採について

街路樹の伐採は基本的には、樹木医による樹木診断で「危険」と判断された木と、枯れ木が対象となります。その他の木についても、下記に該当する場合は、伐採を検討します。

以下の場合伐採を検討する

- ① 樹木診断で倒木の恐れがあると判定された。
- ② 大木化し、太い幹が歩道を著しく狭くしている。
- ③ 根上りを補修しても、すぐ再発することが予測される場合。
- ④ 明らかな交通障害となっている場合。



②の例



③の例



④の例(横断歩道内の街路樹)



なお、伐採した跡地について、基本的には同じ樹種や樹種変更等で決定した樹種を植栽しますが、信号、横断歩道、交差点からの距離等を総合的に考察し、植えるべきでないと判断した場合は、植栽せず舗装を行うこととします。

3-6-7 害虫対策について

①毛虫類

毛虫類への対応については、発生初期の部分的なせん定等による駆除を基本とします。

アメリカシロヒトリについては、発生初期に木の見えやすい位置に白い網状の巣をつくり、その中にいるため発見しやすく、発生する樹種、時期等が把握できているので、発生箇所のせん定による対応が可能です。しかしながら、発生箇所がわかりにくかった等で発生初期を見逃してしまった場合、あっという間に木全体に広がってしまうため、見回りにはある程度の熟練の技術が必要となります。

モンクロシャチホコについては、主にサクラ類の樹木の高い部分に発生し、発生初期にアメリカシロヒトリのような巣状のものはつくらないため、初期に発見するのは困難です。本市にはソメイヨシノの大木が多いため、その上部を目視で探すのはさらに難しい状況となります。そのため駆除する場合は薬剤対応が中心となっています。現時点では薬剤に頼っている状況ですが、せん定による対応も模索してまいります。本書虫は発生初期の葉の食べ方が独特なので、丁寧に目視を行えば発生箇所が発見できるかもしれません。大木では木の最上部を目視するのは困難ですが、将来、小型のサクラの街路樹が増えた場合は、目視しやすいため、せん定による駆除ができる可能性はあります。

今後も、薬剤に頼らない対応を研究してまいります。



アメリカシロヒトリの発生初期の状況。この状況は対応がやや後手になってしまった例だが、ぎりぎりせん定で対応可能なレベル。



左の写真の枝のせん定状況。切り取った枝の葉にアメリカシロヒトリが集団でいたので、駆除は成功といえる。



モンクロシャチホコの発生初期の部分。赤丸の部分のように少し食べ残しがあるのが、発生直後の食べ跡と思われる。

②アブラムシ類

アブラムシ類については、発生が少ない場合は、樹木の生育等にほとんど支障がないため、特段の対応はしないことを基本とします。しかしながら、発生が非常に多い場合は、葉が縮む、変色する、早めに落葉してしまう等、景観上への影響が出る他、アブラムシの排泄物が風で住宅の方へ漂って、洗濯物等への影響が出てしまうこともあるため、必要に応じて薬剤にて駆除を行います。

③クビアカツヤカミキリ

幼虫がサクラ、モモ、ウメ等の木の内部を食い荒らし、被害が大きい場合は枯死に至ります。千葉県内では令和7年に柏市で初めて確認され、広がりつつある状況です。松戸市内はサクラの街路樹が多いため、今後の発生に備えて、あらゆる対策を想定しておく必要があります。



サクラの根元に積もったクビアカツヤカミキリの幼虫が出したフラス（木くずと幼虫のフンが混ざったもの）。他にもフラスを出す害虫はいるが、大量の場合はクビアカツヤカミキリを疑うべき。



フラスは「かりんとう状」「うどん状」等と表現されるように特徴的である。

3-6-8 せん定枝、伐採木の活用法

街路樹のせん定や伐採等により、処分する枝や幹が大量に発生します。現状は多くはチップ化工場へ搬入しているため、バーク堆肥やバイオマス燃料等に活用され、リサイクルされています。今後も新たな活用方法について情報収集に努め、より効率の良いリサイクルを目指していくこととします。

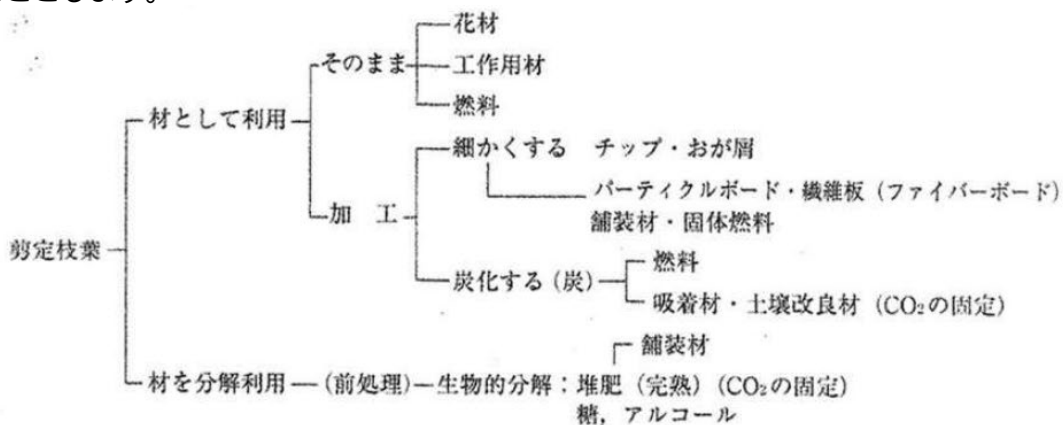
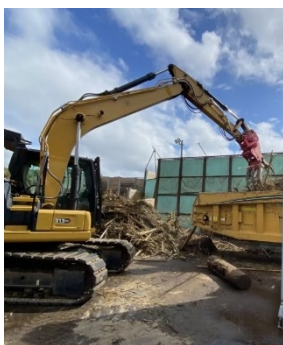


図 剪定枝葉の利用方法（街路樹の緑化工、ソフトサイエンス社より）



チップ化



バイオマス発電所



堆肥化

3-6-9 落ち葉の活用について

秋に大量に発生する落ち葉を腐葉土等として活用できれば理想的ですが、現状ではほとんどが焼却処分となっています。腐葉土づくりを事業化するには、生産場所の確保、不純物が混ざらない回収方法の確立、生産の際の品質確保、腐葉土をどのように活用するか等、様々な課題があります。

循環型社会が求められている現在において、こうした取り組みは必要となりますので、今後、調査・研究を進めます。



ユリノキの落ち葉



イチョウの落ち葉

4. 市民と街路樹

4-1 高評価と厳しい評価

市民と街路樹に係るイベントといえば、やはり「さくらまつり」ではないでしょうか。また、そのイベントの中で、市民団体による桜の保全活動を目的とした募金も行われています。募金で集まった寄附金はさくら通りの植え替えに活用され、市民の皆様のご支援をいただきながら桜並木が保全されています。また、P17でご紹介したとおり、平成30年のアンケートの結果から、多くの市民が街路樹に対して一定の評価していただいていることが読み取れます。

このように評価されているデータがある一方で、街路樹について苦情や要望を受けることもたいへん多く、令和6年度に市に寄せられた件数は約800件にもなります。さくらまつりへの参加や普段の通行ルートとして利用される方と、街路樹がある通りに直接面してお住まいの方では、意見が全く異なることも多く、今後、街路樹整備や管理をする上での大きな課題と言えます。

今後スムーズに街路樹整備を進めていくためには、厳しいご意見の方にもご理解をいただくとともに、樹木に関心のない方や、あまり好意的ではない方に、少しでも樹木に親しみを持っていただけるような工夫が必要であると考えております。

4-2 並木通り名称板等

松戸市では昭和57年より、街路樹がある主な通りに「並木通り名称板」の設置をしています。「さくら通り」「けやき通り」等、通りの呼び名として定着しているものも多く、街路樹に親しみを持っていただくことに貢献してきたと考えています。

今後も「並木通り名称板」を存続させるとともに、色あせているものの改修や、まだ設置されていない通りについても設置を検討します。

また、並木通り名称板を補足するものとして、通りの複数箇所に樹名板を設置し、それぞれの通りの樹種の解説を記載して、さらに親しまれる存在となることを目指します。

この樹名板により、たとえば誤解されている可能性がある「あめりかふう通り」が、木の名前が由来であるという正しい情報をお知らせすることができます。

さらに、今後さくら通りの品種の変更を進めた際には、通り名は「さくら通り」でも正式な品種名は例えば「ジンダイアケボノ」「ヨウコウ」となるため、そのことを樹名板にて詳しくお伝えできます。

このように、通り名称板と樹名板を組み合わせることにより、街路樹への理解や親近感を深めていただけるのではないかと考えております。



並木通り名称板



樹名板

4-3 「前庭プロジェクト」について

落ち葉の季節になると、街路樹の前にお住まいの方が、落ち葉の掃除をされているのをよく見かけます。市民の皆様のご協力によって美しい通りが維持されており、感謝の念に堪えません。

「前庭プロジェクト」は、そのような方々が、家の前にある植樹マスを「前庭」として活用し、交通障害にならない範囲で、好きなものを植えることができるといった内容です。

市は希望する市民に対して場所の提供の他、種や球根等の提供等、前庭づくりのサポートを行います。一方、利用者には、前庭の管理作業のほか、できる範囲で、落葉清掃、胴ぶき・ひこばえの除去、そして樹木に異常があった場合の通報を行っていただきます。

既に「花いっぱい推進事業」として、団体による植樹マスを利用した花壇づくりが行われているところがありますが、この取り組みを個人レベルで実施できるようにし、街路樹管理に少し踏み込んだような内容です。

本プロジェクトを進めるには、まず市側の体制を整えなければなりません。実現できれば、市側にも利用者側にもメリットがあり、さらに市民の街路樹への愛着に直接的につながるため、しっかりと内容を検討してまいります。



「前庭プロジェクト」実施箇所のサインのイメージ

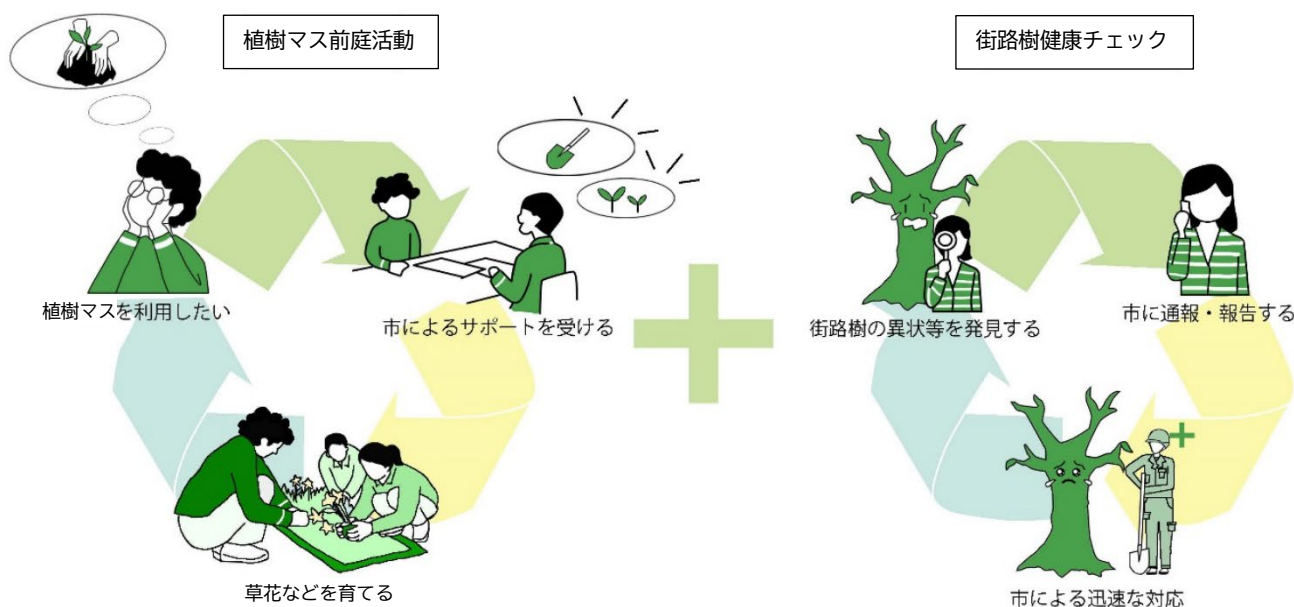


図4-1 「前庭プロジェクト」イメージ

4-4 民間による整備や維持管理へのご協力

街路樹の整備や維持管理への資金面の民間からのご協力としましては、これまでも、さくらまつりの際に募金を実施している団体からの寄附、企業からの寄附、個人的な寄附等をいただいております。感謝の念に堪えません。今後は、クラウドファンディングや、街路樹オーナー制度（寄附金をいただき街路樹のオーナーになっていただく制度）等の活用について調査研究してまいります。

5. おわりに

本市の街路樹の多くが植栽後50年以上となりますが、ほとんどの街路樹について、植栽時の樹種のまま維持管理を行っており、美しい景観づくりや街路樹としての機能を果たしてきました。その一方で現状維持では、今後立ち行かなくなる可能性が見えてきました。

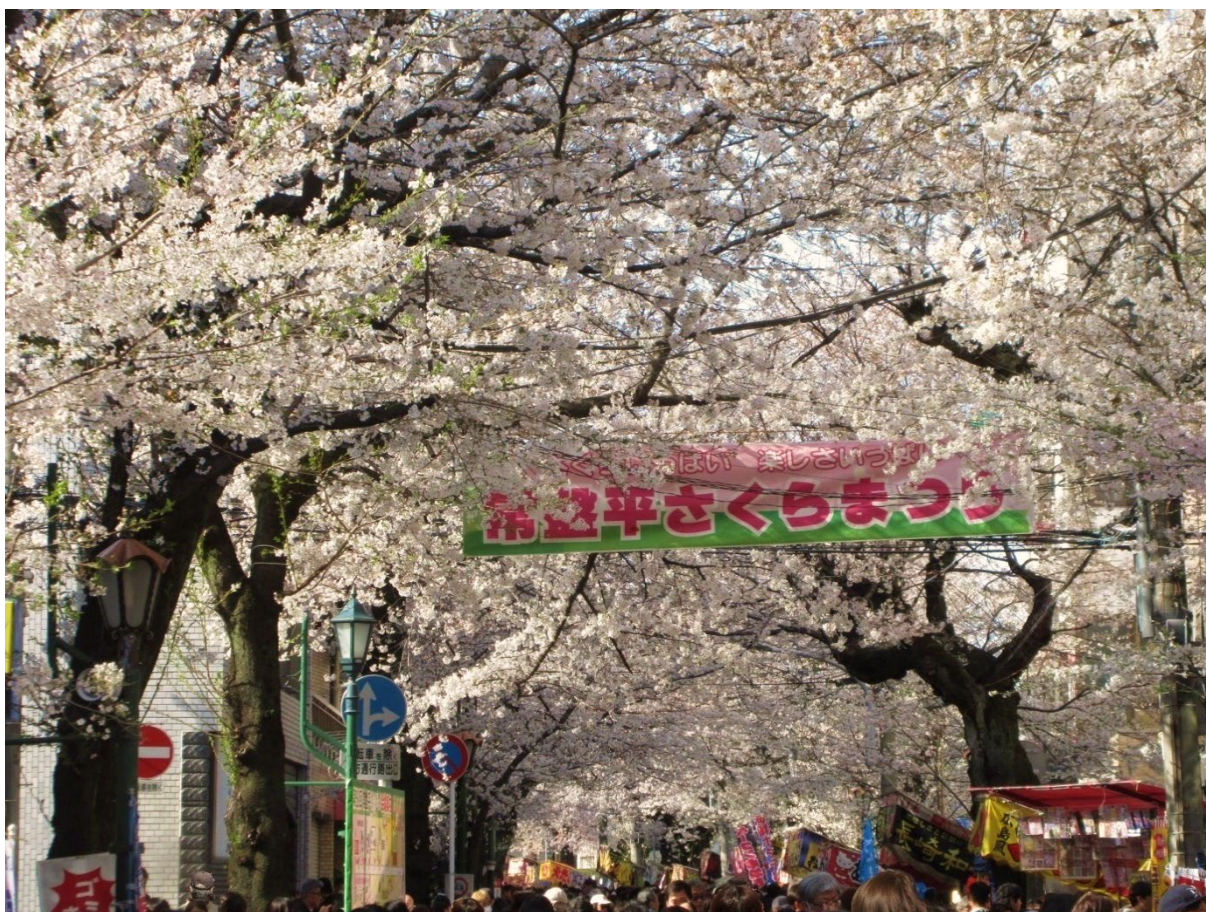
本ガイドラインは、従来の整備と管理の考え方では、将来、安全面や維持管理費用面において非常に厳しくなるという危機感のもと作成しました。

街路樹の植え替え等の整備には、大木の伐採を伴うことも多く、相当な費用を要することが想定されます。そのため、市内全域にかけて整備を行うには、長い期間が必要となります。

令和7年12月現在、街路樹を担当する部署には、少ないながらも専門的な職員が在籍しています。しかしながら、今後については、社会的な問題となっている技術者不足などもあり、将来的にどのような体制で業務にあたることができるかは見通せません。

そのような状況の中でも、街路樹の整備・管理について、誰が担当しても基本的な業務を継承できるようにするため、本ガイドラインを活用してまいります。また、本ガイドラインの運用を通じて、街路樹に関する知識や技術が職員間で共有・蓄積され、将来的には専門的な技術を担う人材の育成につなげることを考えています。

本ガイドラインに基づき、「安全」、「美観と緑陰」、「維持管理費の軽減」を3本柱に街路樹の整備と管理を進め、市民から未永く愛される街路樹となることを目指してまいります。



多くの方々と賑わう常盤平さくらまつり

■用語集

P1他 品種の変更

樹木の種類は変わらず、品種を変更する。

例：サクラ(ソメイヨシノ)→サクラ(ジンダイアケボノ)

P2他 建築限界（けんちくげんかい）

道路に係る構造物などは、歩行者や車両の通行の支障とならないように、それぞれ地面の高さからある程度の空間を維持することが求められています。車道からは 4.5m、歩道からは 2.5m以上の空間を開ける必要があります。

P3他 みどりの基本計画（緑の基本計画）

緑地の保全や緑化の推進に関して、その将来像、目標、施策などを市町村が定める基本計画のこと（都市緑化法第4条）。

P6 ウォーカブルなまちなか

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりのこと。街路空間を車中心から「人中心」への空間へ再構築する試みであり、多くの都市で取り組みが進められています。本市は、令和2年に「ウォーカブル推進都市」に賛同しました。

P6 樹冠被覆率

空から地上を見たときの、木の葉や枝が地面をどれくらい覆っているかの割合のことです。英語では「canopy cover」または「tree canopy cover」です。

P16他 植樹帯（しょくじゅたい）

高木や中低木が植わるスペースのこと。

P18 てんぐ巣病

カビの一種が原因となる、サクラに多い病気です。枝にコブができたり、小枝が密集して鳥の巣のようなものができ、花が咲かなくなります。

P20他 植樹マス

道路に街路樹を植えるためにつくられた、縁石等で囲われた土のスペース。

P22他 うどんこ病

その名のとおり、うどん粉のような白い粉状の斑点が現れる病気です。樹木ではこの病気が原因で枯れることは稀ですが、草花や野菜では枯れる原因となることがあります。

P26 掌状複葉（しょうじょうふくよう）

葉柄（枝の先の葉が付くところ）の先に、放射状に葉が付くこと。手のひら（掌）を広げたような形に見えます。

P30他 ひこばえ

P66、P67⑨参照。強めにせん定した後や樹勢が衰えると発生しやすくなります。樹木の根元で発生し、葉で吸収した光のエネルギーを直接根に送ることができるため、木の生育には役立ちますが、見栄えが悪くなったり、歩行者へ支障が出る場合があります。

P42他 樹種変更

樹木の種類そのものを変更する。

例：マテバシイ→常緑ヤマボウシ

P42他 さび病

カビが原因で発生する植物の病気。サビのような赤茶色い斑点が発生します。

P64 ワールドカフェ

カフェのような落ち着いた環境のなか、少人数で話し合うこと。参加者は一か所にとどまらず、隣のテーブルに移動し、別の参加者と自由に意見を交わすことができるため、参加者全員の意見を聞くことができます。